工事成績評定の様式一覧表(一般土木工事関係) *0:2018/1/1 - 部改正様式

様	式 名				<u>x</u>	分	様式番号	
項	目別評定点	杨	È	査 員			土1	
	工事成績	総括	監督	₹員•検査員	1,500万円	以上の場合	土2-1	
	採点表	総括	監督	₹員•検査員	500万円以	↓上・1,500万円未満の場合	土2-2	
		総	1 方	拖工体制		Ⅰ 施工体制一般 Ⅱ 配置技術者	±3-1(1)	
	1,500万円	括	o to	————— 拖工状況		Ⅰ施工管理 Ⅱ工程管理	±3-1 ²	
	以上	監督	Z J	也工认沉		Ⅲ安全対策 Ⅳ対外関係	±3-1③	
		員	3 H	出来形及び出	来ばえ	Ⅰ出来形 Ⅱ品質	±3-1 4)	
		総検	1 7:			Ⅰ 施工体制一般 Ⅱ 配置技術者	±3-2①	
	500万円以 上•1,500万円	括監査	-			I 施工管理 Ⅱ工程管理	±3-2②	
	未満	督	2 疗	拖工状況				
		員員	o +	5 - 11 10		Ⅲ安全対策 Ⅳ対外関係	±3-2③	
	1,500万円以上	ļ	2	他工状況 		I 施工管理	土3-3	
				I 出来形	->. <i>-</i>	上推准加工市	土3-4	
						ト構造物工事	土3-5(1)	
					土工事		土3-5(2)	
						引・水制工事、ブロック(石)積工(張工)	土3-5(3)	
						及びその他鋼構造物	土3-5(4)	
						物工事及び地すべり防止工事	土3-5(5)	
					舗装工事		土3-5(6)	
					海岸工事		土3-5(7)	
-					法面工事		土3-5(8)(9)(10)	
						及び地盤改良工事	土3-5(11)(12)	
,						構造物·小型構造物	土3-5(13)	
į			3		コンクリー	ト橋工事	土3-5(14)	
?			٥		塗装工事		土3-5(15)	
			出	Ⅱ 品質	トンネルエ	土3-5(16)		
) -			来		防護柵•標	標識·区画線等設置工事	土3-5(17)	
Ė			形		植栽工事		土3-5(18)	
Į		杳	及		港湾築造	工事	土3-5(19)(20)	
Į		且	び		ほ場整備	工事	土3-5(21)	
IJ	500万円以		出来		暗渠排水	工事	土3-5(22)	
	上		ばば		管水路工	事・畑かん工事・営農飲雑用水工事	土3-5(23)	
₹ ₹			え		木製構造	物工事	土3-5(24)	
ζ					鋼製自在	枠工事	土3-5(25)	
					補強土壁	工事	土3-5(26)	
					軽量盛土.		土3-5(27)	
					橋梁補修		土3-5(28)(29)	
		員			上記以外		±3-5(30)	
						ト・砂防・海岸・トンネル、土、切土、護岸、	±3-6①	
						・ショウリロ 舗装、法面、基礎工、コンクリート橋	土3-6②	
				Ⅲ 出来げっ		成、防護柵、標識、区画線	±3-63	
				ш шжих		、暗渠排水、維持修繕、港湾築造、管水路、畑か	·	
					木製構造	、暗来所示、服所 <i>修幅、たち</i> 果足、皆不断、加か物 物、鋼製自在枠、河川浚渫、二次製品構造物・ 物、補強土壁・軽量盛土	±3-6(5)	
						70、〒四工室 * 料里/面工 繕工事、河川伐開工事、上記以外の工事又は合併工事	±3-66	
			4.7	 C事特性			±3-7(1)	
				到意工夫			±3-7②	
			_	<u> </u>			±3-73	
		総括監			8 法令遵守		±3-8	
					「なりなりなり	a a	±3-9	
						5. 11 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	±3-10①	
_==	事符性 剧恵	上大•社	会化	生等に関する	美 他状况(i	兄 明 真科)	土3-10②	

項目別評定点

2018/1/1 以降 工 事 検 査 課

I 配置技術者 / 4.1点 2 施工状況 I 施工管理 / 13.0点 I 工程管理 / 8.1点 II 安全対策 / 8.8点 IV 対外関係 / 3.7点 I 出来形 / 15.0点	受注者 主任·監理技術者 考 在 項 目	項 目	
主任·監理技術者 考 查 項 目 項 目 細 別 1 施 工 体 制 I 施 工 体 制 一般 I 配 置 技 術 者 / 4.1点 2 施 工 状 況 I 施 工 管 理 I 工 程 管 理 / 8.1点 I 工 程 管 理 / 8.8点 IV 対 外 関 係 / 3.7点 I 出 来 形 / 15.0点	主任・監理技術者 考 査 項 目	項目	
考查項目 項目 1施工体制 I施工体制一般 I配置技術者 2施工状況 I施工管理 IX工程管理 IX工程管理 IX对外関係 IX对外関係 IX对外関係 IX对外関係 IX工程管理 IX对外関係 IX IX	考 査 項 目	項目	
項目 細別 1施工体制 I施工体制一般 I配置技術者 4.1点 2施工状況 I施工管理 I工程管理 8.1点 I工程管理 8.8点 IV対外関係 3.7点 I出来形 15.0点	項目		
項目 細別 1施工体制 I施工体制一般 工配置技術者 4.1点 2施工状況 I施工管理 工程管理 8.1点 工程管理 8.8点 V対外関係 3.7点 1出来形 15.0点			郭宁占 / 港占
I 配置技術者 / 4.1点 2 施工状況 I 施工管理 / 13.0点 I 工程管理 / 8.1点 II 安全対策 / 8.8点 IV 対外関係 / 3.7点 I 出来形 / 15.0点		細別	计定点 / 心流
2施工状況 I施工管理 / 13.0点 I工程管理 / 8.1点 IT安全対策 / 8.8点 IV対外関係 / 3.7点 I出来形 / 15.0点	1 施 工 体 制	I 施工体制一般	∕ 3.3点
Ⅱ 工程管理 / 8.1点Ⅲ安全対策 / 8.8点Ⅳ 対外関係 / 3.7点Ⅱ 来 形 / 15.0点		Ⅱ配置技術者	/ 4.1点
□ 安全対策 / 8.8点 □ 安全対策 / 3.7点 □ 出来形 / 15.0点	2 施 工 状 況	I 施 工 管 理	╱ 13.0点
IV 対 外 関 係 / 3.7点 I 出 来 形 / 15.0点 3 出 来 形		Ⅱ エ 程 管 理	∕ 8.1点
I 出 来 形 / 15.0点 3 出 来 形		Ⅲ安全対策	∕ 8.8点
3 出 来 形		IV 対 外 関 係	╱ 3.7点
	- 111	I 出 来 形	╱ 15.0点
及び II 品 質 / 17.5点 出来ばえ	及 び	Ⅱ 品 質	╱ 17.5点
	H // 16 //	Ⅲ 出 来 ば え	∕ 8.5点
4 工 事 特 性 I 施工条件等への対応 / 7.0点	4 工 事 特 性	I 施工条件等への対応	╱ 7.0点
5 創 意 工 夫 I 創 意 工 夫 / 5.8点	5 創 意 工 夫	I 創 意 工 夫	╱ 5.8点
6 社 会 性 等 I 地域への貢献等 / 5.2点	6 社 会 性 等	I 地域への貢献等	╱ 5.2点
7 評定点小計 (小数第2位を四捨五入し1位止め) 点	7 評定点小計	(小数第2位を四捨五入し1位止め)	点
8 法 令 遵 守 等			
評 定 点 / 100点	8 法令遵守等		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

工 事 成 績 採 点 表 (完成・中間)

2018/1/1 以降

平成 年 月 日 作成

1 5007	= m N																			平成		手 ★	月		作月	炗
	<u>ワウレ</u> 名	<u> </u> 							契糸	的金額	(最終	久)										尹 化	査 ∌	林		
受注					-	Т. ‡	 朝	平成	年			~ :	平成	年	月	日				完	成年月	H				
			(1)	総括	監督								<u>+ ////</u> 中間)		/,	3検	查		1 (5			. <u></u> D検	査		1 (完成)
考	5	査 項 目	職氏名					職氏名							職氏	名			•			F				
項目		細別	а	b	С	d	е	а	a′	b	b′	С	d	е	а	a′	b	b '	С	d	е	а	b	С	d	е
1. 施工作	体制	I. 施工体制一般	+2.0	+1.0	0	-5.0	-10																			
		Ⅱ. 配置技術者	+3.0	+1.5	0	-5.0	-10																			
2. 施工	状況	I. 施工管理	+4.0	+2.0	0	-5.0	-10	+5.0		+2.5		0	-7.5	-15	+5.0		+2.5		0	-7. 5	-15					
		Ⅱ. 工程管理	+7.0	+3.5	0	-5.0	-10																			
		Ⅲ. 安全対策	+9.0	+4.5	0	-5.0	-10																			
		IV. 対外関係	+3.0	+1.5	0	-2.5	-5.0																			
3. 出来	形	I. 出来形	+4.0	+2.0	0	-2.5	-5.0	+10	+7.5	+5.0	+2.5	0	-10	-20	+10	+7.5	+5.0	+2.5	0	-10	-20					
及び		Ⅱ. 品 質	+3.0	+1.5	0	-2.5	-5.0	+16	+12	+8.0	+4.0	0	-12.5	-25	+16	+12	+8.0	+4.0	0	-12. 5	-25					
出来	ばえ	Ⅲ. 出来ばえ						+4.0		+2.0		0	-5.0		+4.0		+2.0		0	-5.0						
4. 工事	特性	I. 施工条件等への対応 ※2	77																			(16	~ 1)	0		
5. 創意	工夫	I. 創意工夫 ※3																				(11	~1)	0		
6. 社会(性等	I. 地域への貢献等																				(8~	1)	0		
加減点合計	+ (1+2+3+4+5+6)				点							点							点					点
評定点(6 5 点	点土加減点合計)※1	1				点	2						点	3						点	4				点
7. 評定	点計						点	〇中間	検査が	があった	場合:	(1)	点×0	. 4+0	2) 点	×0.2	2+3	点×(). 22·	+4	点×0	. 18):	- , ,	ā.		
							_	但(し、中間	間検査な	が2回以	以上あ	った場合	合には、	、平均值	直を用し	いること	0								
								〇中間	検査を	がなかっ	た場合	計:(①	点×	0.4-	+③	点×0	. 42+	④ 点	(×0.	18)=	点					
8. 法令	遵守等	等 ※ 4					点																			
9. 評定	点合計	† ※ 5					点	O7.	評定,	点計-8	. 法令	う遵守	等													
所	見	見 ※6	【総括	5監督員	Į]										【検	查員】										

^{※1 65}点+1.~3.の評定(加減点合計)+4.~6.の評定(加点合計) = 評定点。各評定点(①~④)は小数第1位まで記入する。

^{※2} 工事特性は、当該工事特有の難度の高い条件(構造物の特殊性、特異な技術、都市部等の作業環境・社会条件、厳しい自然・地盤条件、長期工事における安全確保等)に対して適切に対応したことを評価する項目である。

^{※3} 創意工夫は、工事特性のような難度を伴わない工事において、企業の工夫やノウハウにより特筆すべき便益があった場合に評価する項目である。

^{※4} 法令遵守等の評価は、総括監督員が行い、減点評価のみとする。

^{※5} 評定点合計は、四捨五入により整数とする。なお、各考査項目毎の採点は、別紙「工事成績採点の考査項目別運用表」による。

^{※6} 所見は必ず記載する。

^{※7} 部分引渡し検査は、検査員のみが評定し、中間検査と同様の取り扱いとする。従って、部分引渡し検査1回、中間検査1回の場合はその平均値とする。

工 事 成 績 採 点 表 (完 成)

2018/1/1 以降

平成 年 月 日 作成

500万円以上1,	500万円未満の場合														工 事 検 査 課
工 事 名														契約金額(最終)
受 注 者			工期	平成	年	月	日~平	成 4	年 月	日				完成年月日 平	成 年 月 日
考	* 5		総括	監	1 員			検	查	員					
与	査 項 目	職氏名				印	職氏名						印	項目別評定点	備考
項目	細別	a	b	С	d	е	a	a′	b	b ′	с	d	е		
1. 施工体制	I. 施工体制一般	+3.3	+2.9	+2.5	+0.5	-1.5								/ 3.3点	
	Ⅱ. 配置技術者	+4. 1	+3.5	+2.9	+0.9	-1.1								/ 4.1点	
2. 施工状況	I. 施工管理						+13. 0		+11.2		+9.3	+3. 7	-1.0	╱13.0点	
	Ⅱ. 工程管理		+6.7	+5.3	+3.3	+1.3								/ 8.1点	
	Ⅲ. 安全対策	+8.8	+7.0	+5. 2	+3. 2	+1.2								/ 8.8点	
	IV. 対外関係	+3. 7	+3. 1	+2.5	+1.5	+0.5								/ 3.7点	
3. 出来形	I. 出来形						+15.0	+13. 1	+11.1	+10.2	+9.2	+4.0	-1.2	/15.0点	① (加点)×0. 18+4. 12
及び	Ⅱ. 品 質						+17.5	+15.6	+13.6	+11.6	+9.6	+3.4	-2.9	/17.5点	- 考査項目別運用表でチェック(+16点~0点の範囲)
出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ						+8. 5		+7. 6		+6.8	+4. 7		/ 8.5点	② (加点)×0. 18+3. 82
4. 工事特性	I. 施工条件等への対応※1						1)	•		•	+4. 1			/ 7.0点	└── 考査項目別運用表でチェック(+11点~0点の範囲)
5. 創意工夫	I. 創意工夫 ※2						2	_			+3.8			/ 5.8点	③ (加点)×0. 18+3. 76
6. 社会性等	I. 地域への貢献等						3				+3.8			/ 5.2点	
7. 評定点計	(1+2+3+4+5+6)													点	
8. 法令遵守等	※ 3					点									
9. 評定点合計	※ 4					点	○7.	評定点	計-8.	法令遵守	宁等				
所 見	※ 5	【総括	監督員】					•					【検査	員】	

^{※1} 工事特性は、当該工事特有の難度の高い条件(構造物の特殊性、特異な技術、都市部等の作業環境・社会条件、厳しい自然・地盤条件、長期工事における安全確保等)に対して適切に対応したことを評価する項目である。

^{※2} 創意工夫は、工事特性のような難度を伴わない工事において、企業の工夫やノウハウにより特筆すべき便益があった場合に評価する項目である。

^{※3} 法令遵守等の評価は、総括監督員が行い、減点評価のみとする。
※4 評定点合計は、四捨五入により整数とする。なお、各考査項目毎の採点は、別紙「工事成績採点の考査項目別運用表」による。

^{※5} 所見は必ず記載する。

様式土3-1 ① (1500万円以上)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の口	にレマークを記入する。			2018/1/1 以降	(総括監督員)
考査項目	細別	а	b	С	d	е
1, 施工体制	I. 施工体制一般		ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
		●評価対象項目 □1) 施工計画書が、工事着手前に提出され □2) 施工計画書の内容と現場の施工体制、 ○□3) 施工体制台帳及び施工体系図に作業分	施工方法等が一致している。 分担の範囲が明確に記載され、下請契約書	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	□ 施工体制一般に関して、監督員が文書で改善指示を行った。	□ 施工体制一般に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
				契約等適正化指針に基づく 下請契約遵守を含む。)と契約する際に、標準見積書の提		
			受されている。(下請契約金額1件あたり500 、事故等が発生した場合の対応が速やかで が適切に行われている。)			
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c		①○印の評価対象項目については、当 ②削除項目のある場合は削除後の評価 価する。 ③評価値(%)=該当項目数(該工事に該当しない場合はその項目数を母数として計算した。) /評価対象項目数(
	Ⅱ. 配置技術者	а	b	С	d	e
	(現場代理人等)	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
	© ©	○ □8) 下請の施工体制及び施工状況を把握し	は、 ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は	相違があった場合は、監督員と協議するな な的に説明を行っている。 いる。 E行っている。	□ 配置技術者に関して、 監督員が文書で改善指 示を行った。	□ 配置技術者に関して、 監督員からの文書によ る改善指示に従わな かった。
		●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c	,	①○印の評価対象項目については、当 ②◎印は加点項目であり、該当行為が ③削除項目のある場合は削除後の評価 価する。 ④評価値(%)=該当項目数(他の模範となるほど質が高い	場合に評価する。 比率(%)計算の値で評

様式土3-1 ② (1500万円以上)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の口]にレマーク	を記入する。			2018/1/1 以降	(総括監督員)
考査項目	細別		а	b	С	d	е
2, 施工状況	I. 施工管理		適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
	•	□1) ○□2) ○□3) □4) ○□5) □6) ○□7) □8) ○□9) □10) ○□11)		され、管理されている。 むを得ない理由により使用していない場合 ている。 適切に行われている。 理基準に基づき適時及び的確に行われて 基準に基づき適時及び的確に行われてし れている。 されている。 ている。	ごいる。(写真管理含む) いる。(写真管理含む)	□ 施工管理に関して、監 督員が文書で改善指示 を行った。	□ 施工管理に関して、監 督員からの文書による 改善指示に従わなかっ た。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c		①○印の評価対象項目については、当 ②◎印は加点項目であり、該当行為が ③削除項目のある場合は削除後の評価 価する。 ④評価値(%)=該当項目数(他の模範とかろほど質が高い場	!合に評価する ■
	Ⅱ. 工程管理		а	b	С	d	е
			適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
	© ©	□1) □2) ○□3) □4) □5) □6)	以上工程の遅れがなかった。) 現場条件の変化への対応が迅速であり、 時間制限等の工程に関する各種制約へ 工程に与える要因が的確に把握され、そ 工事の進捗を早めるための取り組みが行 工程管理を適切に行なったことにより、付 情がなかった。	、その結果施工の停滞が見られない。 の対応が適切であり、大きな工程の遅れ れらを反映した綿密な工程表が作成され うわれている。 木日や夜間工事・時間外作業の回避等を	適切な工程管理が行われている。 行い、地域住民からも特にそれに対する苦	□ 工程管理に関して、監督員が文書で改善指示を行った。	□ 工程管理に関して、監督員からの文書による 改善指示に従わなかった。又は、請負者の責 により工期内に工事を 完成させなかった。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c		①○印の評価対象項目については、当 ②◎印は加点項目であり、該当行為が ③削除項目のある場合は削除後の評価 価する。 ④評価値(%)=該当項目数(他の模範となるほど質が高い場	合に評価する。 と率(%)計算の値で評

様式土3-1 ③ (1500万円以上)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

(総括監督員)

2018/1/1 以降

考査項目	細別		а		b	С	d	е
2, 施工状況	Ⅲ. 安全対策		適切でな	ある	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
		0 0	□2) 社内パトロールを1回。 □3) 安全教育及び安全訓結 □4) 安全巡視、TBM, KY3 □5) 新規入場者教育の内3 □6) 工事期間を通じて、労 □7) 過積載防止に積極的[○ □8) 仮設工の設置が法令3	/月以上実施し、記 練等が半日/月以 等を実施し、記録か 容に、当該工事の 働災害及び公衆災 に取り組んでいる。 等の諸基準を順守 管理が、各種基準 線等に関する事故[上実施されている。 「整備されている。 見場特性が反映されている。 害が発生しなかった。 しており、点検及び管理がチェックリスト等 及び関係者間の協議に基づき実施されてし 防止対策に取り組んでいる。	を用いて実施されている。	□ 安全対策に関して、監 督員が文書で改善指示 を行った。	□ 安全対策に関して、監督員からの文書による 改善指示に従わなかった。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が80%未満・・・・	%未満•••••b		①○印の評価対象項目については、当記②◎印は加点項目であり、該当行為が作 ③削除項目のある場合は削除後の評価である。 ④評価値(%)=該当項目数(1の模範となるほど質が高い場	合に評価する。
	Ⅳ. 対外関係		а		b	С	d	е
			適切でな	ある	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
		0 0	□3) 地元と調整を行うなど□4) 近隣住民からの苦情が□5) 第三者からの苦情が○□6) 関連工事との調整を行うなど	造物掘削等に伴う 十分な配慮を行っっ が無い。もしくは、苦 無い。もしくは、苦情 示い、円滑な進捗に	借地、任意の工事用道路等の確保を自主 て施工している。 「情に対して適切な対応を行っている。 「に対して適切な対応を行っている。		□ 対外関係に関して、監 督員が文書で改善指示 を行った。	□ 対外関係に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が80%未満・・・・	%未満•••••b		①○印の評価対象項目については、当ま②◎印は加点項目であり、該当行為が作 ③削除項目のある場合は削除後の評価である。 ④評価値(%)=該当項目数(▼	項目を削除する。 合に評価する。 率(%)計算の値で評

様式土3-1 ④ (1500万円以上)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

記入方法] 該当する項目の口	にレマークを記入する。			2018/1/1 以降	(総括監督員)
考査項目 細別	а	b	С	d	е
出来形及び出来ばえ Ⅰ.出来形	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内である。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目 について所定の測定基準に基づき 行われており、測定値が規格値を 満足し、そのばらつきが規格値の概 ね80%以内である。	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足しているが、そのばらつきが規格値の80%を超える。	□ 出来形の測定方法又 は測定値が不適切で あったため、監督員が 文書で改善指示を行っ た。	□ 契約書第17条に基 き、監督員が改造請 を行った。
	に基づき所定の出来形を確保する管	事目的物の形状及び寸法をいう。 理基準」の測定項目、測定基準及び規格 F理体系であるが、当該管理基準によりが の上で出来形管理を行うものである。		※検査時に検査員の 指摘を受け、監督員の 指摘を受け、監督員事 を行った場合も「d評 価」とする。ただし、小 直し工事の程度が事 に場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 に検査員により確認の きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること ができる。	
	а	b	С	d	е
Ⅱ. 品質	□ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内である。	□ 品質の測定が、必要な測定項目に ついて所定の測定基準に基づき行 われており、測定値が規格値を満 足し、そのばらつきが規格値の概ね 80%以内である。	□ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の80%を超える。	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切で あったため、監督員が 文書で改善指示を行っ た。	
	 ① 品質の評定は、工事全般を通じて評② 品質とは、設計図書に示された工事 ③ 品質管理とは、「土木工事施工管理:基づく全ての段階における品質確保のなお、当該管理基準によりがたい場合品質管理を行うものである。 ④ 品質管理項目を設定していない工事 	目的物の規格である。 基準」の試験項目、試験基準及び規格値 のための管理体系である。 等については、監督員と協議の上で	I=	※検査時に検査員の指摘を受け、監督員の指病を受け、監督員の指示により手直し工事を行った場合も「d評価」とする。ただし、手直し工事の程度が小さい場合(手直し工事の完了が検査の翌日中に検査の確認できた場評により確認できた場評価とすることができる。	
	品質管理点数が少なく、バラツキの判定 況、全体の仕上がり状態を工事記録、E				

様式土3-2 ① (1500万円未満)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の口	にレマーク	を記入する。			2018/1/1 以降	(総括監督員)
考査項目	細別		а	b	С	d	е
1, 施工体制	I. 施工体制一般		適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
		□1) □2) ○ □3)		を工方法等が一致している。 担の範囲が明確に記載され、下請契約: 事ついて、鳥取県建設工事における下請		□ 施工体制一般に関し て、監督員が文書で改 善指示を行った。	□ 施工体制一般に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
		○ □5) ○ □6)	提出依頼を書面で行う等適正な価格での	D契約締結に努めている。			
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c		①○印の評価対象項目については、当該 ②削除項目のある場合は削除後の評価項 価する。 ③評価値(%)=該当項目数(率(%)計算の値で評
	Ⅱ. 配置技術者		а	b	С	d	e
	(現場代理人・主		適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
	任技術者等) ◎ ◎	□1) □2) □3) □4) □5)	1 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /	適切に作成され整理されている。 『を理解し、施工に反映しており、自ら主作象、地質等)への対応が十分に図られて	いる。	□ 配置技術者に関して、 監督員が文書で改善 指示を行った。	□ 配置技術者に関して、 監督員からの文書によ る改善指示に従わな かった。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c		①○印の評価対象項目については、当 ②◎印は加点項目であり、該当行為が ③削除項目のある場合は削除後の評価 価する。 ④評価値(%)=該当項目数(也の模範となるほど質が高い場	易合に評価する。 比率(%)計算の値で評

様式土3-2 ② (1500万円未満)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。

2018/1/1 以降 (検査員: I 施工管理)、(総括監督員: II 工程管理) 考查項目 細別 а c 適切である ほぼ適切である 2. 施工状況 I. 施工管理 他の評価に該当しない やや不適切 不適切である □ 施工管理に関して、監 □ 施工管理に関して、監 ●評価対象項目 督員が文書で改善指 督員からの文書による 施工計画書が対象工種の着手前に提出され、所定の項目、内容が適切に記載されているとともに、設計図書の内容及び現 示を行った。 改善指示に従わなかっ 場条件を反映したものとなっていることが確認できる。 土木工事施工管理基準に示した基準を上回る自社の施工管理基準を設定し、管理していることが確認できる。 □3) 段階確認、協議等が適期に行われ、書類が作成されている。 ○ □4) 建設副産物が適切に処理されている。 □5) 日常の出来形管理が、土木工事施工管理基準に基づき適時及び的確に行われている。(写真管理含む) ○ □6) 日常の品質管理が、土木工事施工管理基準に基づき適時及び的確に行われている。(写真管理含む) □7) 現場内での整理整頓が日常的に行われている。 □8) 工事の関係書類が不足なく簡潔に整理されていることが確認できる。 ○ □9) その他(理由: ①〇印の評価対象項目については、当該工事に該当しない場合はその項目を削除する。 ②◎印は加点項目であり、施工計画書に施工管理基準(出来形又は品質)を上回る自社管理値を設けており、基準と自社管理値の仕分けが明確に記載され、計画どおり管理されている場合に評価する。 ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・b ③削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評 評価値が80%未満・・・・・・c %)=該当項目数() /評価対象項目数 Ⅱ. 工程管理 b d а С 適切である ほぼ適切である 他の評価に該当しない やや不適切 不適切である □ 工程管理に関して、監 □ 工程管理に関して、監 ●評価対象項目 督員が文書で改善指 督員からの文書による □1) 実施工程表の点検及びフォローアップが行われており、適切に工程が管理されている。(計画に対し2ヶ月以上連続して10% 示を行った。 改善指示に従わなかっ 以上工程の遅れがなかった。) た。又は、請負者の責 □2) 現場条件の変化への対応が迅速であり、その結果施工の停滞が見られない。 により工期内に工事を O 🗆 3) 時間制限等の工程に関する各種制約への対応が適切であり、大きな工程の遅れが無い。 完成させなかった。 $\Box 4)$ 工程に与える要因が的確に把握され、それらを反映した綿密な工程表が作成され適切な工程管理が行われている。 工程管理を適切に行なったことにより、休日や夜間工事・時間外作業の回避等を行い、地域住民からも特にそれに対する苦 情がなかった。 ○ □6) その他(理由: ①○印の評価対象項目については、当該工事に該当しない場合はその項目を削除する。 ●判断基準 ②回印は加点項目であり、該当行為が他の模範となるほど質が高い場合に評価する。 評価値が90%以上・・・・・a ③削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評 評価値が80%以上90%未満・・・・b 価する。 ④評価値(%)=該当項目数()/評価対象項目数() 評価値が80%未満・・・・・・・。

様式土3-2 ③ (1500万円未満)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	ロにレマーク	で記入する。			2018/1/1 以降	(総括監督員)
考査項目	細別		а	b	С	d	е
2, 施工状況	Ⅲ. 安全対策		適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
		O □1) □2) □3) □4) □5) □6) □7) O □7) O □8) O □9) □10)	安全教育及びや安全訓練等が半日/月新規入場者教育の内容に、当該工事の安全巡視、TBM, KY等を実施し、記録が工事期間を通じて、労働災害及び公衆が過積載防止に積極的に取り組んでいる。仮設工の設置が法令等の諸基準を順守保安施設の設置及び管理が、各種基準	日以上実施されている。 現場特性が反映されている。 が整備されている。 炎害が発生しなかった。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	等を用いて実施されている。	□ 安全対策に関して、監督員が文書で改善指示を行った。	□ 安全対策に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c		①○印の評価対象項目については、当該②◎印は加点項目であり、該当行為が他③削除項目のある場合は削除後の評価項価する。 ④評価値(%)=該当項目数(也の模範となるほど質が高い場	合に評価する。 率(%)計算の値で評
	Ⅳ. 対外関係		а	b	С	d	е
			適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
		O □1) © □2) © □3) □4) □5) O □6)	地元と調整を行うなど十分な配慮を行っ 近隣住民からの苦情が無い。もしくは、ま 第三者からの苦情が無い。もしくは、苦	が借地、任意の工事用道路等の確保を自 て施工している。 苦情に対して適切な対応を行っている。 青に対して適切な対応を行っている。	主的に行った。	□ 対外関係に関して、監督員が文書で改善指示を行った。	□ 対外関係に関して、監督員からの文書による改善指示に従わなかった。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・・b 評価値が80%未満・・・・・・・c		①○印の評価対象項目については、当該 ②◎印は加点項目であり、該当行為が他 ③削除項目のある場合は削除後の評価項 価する。 ④評価値 (%)=該当項目数 (

様式土3-3 (1500万円以上)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入す	ける。			2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別		а	b	С	d	е
2, 施工状況	I. 施工管理		適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切	不適切である
		したものと7 □2) 現場条件3 □3) 段階確認、 □4) 工事の関係 □5) 工事記録写	なっていることが確認できる。 なは計画内容に変更が生じた場合は、そ 施工状況把握が適期に行われ、記録整 条書類が不足なく簡潔に整理されている な真等が、写真管理基準及び写真管理		是出されていることが確認できる。	□ 施工について、監督員 が文書で改善指示を 行った。	□ 施工について、監督員 からの文書による改善 指示に従わなかった。
		評価値が8	೬ 0%以上······a 0%以上90%未満·····b 0%未満······c		①〇印の評価対象項目については、当 ②〇申は加点項目であり、施工計画書 管理値を設けており、基準と目社れている場合に評価する。 ③削除項目のある場合は削除後の評価 価する。 ④評価値(%)=該当項目数 ⑤なお、削除後の評価対象項目数が2	1月日 叙を母 叙 と し (計算 した)	比率(%)計算の他で評

様式土3-4

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

「記入方法」 該当する項目の□にレマークを記入する。 (検 査 員) 2018/1/1 以降

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	己人万法」 該当する項	<u> ヨの口にレ</u>	マークを記入する。					2018/1/1 以降	(検査員)
正 出来形	考査項目 細別				-		_		_
●評価対象項目 □1 出来形管理表または管理図表(測定基準に「寸法表示箇所」または「測点毎」と記載された測定項目を含む)及び工事完成図が、過 不足なく整理されていることが確認できる。 □2 出来形管理の結果が、施工計画書に設定した自社施工管理基準を管理点数の8割以上で満足していることが確認できる。 □3 写真管理基準の管理項目及び管理点数が基準を満足している。 □4 不可視部分の出来形が、写真で確認できる。 □5 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □6 その他 □1 出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堰工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目とは、堰埠工、流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「ご」評価とする。 ⑧ ⑩印は加点項目をある。⑤ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「ご]評価とする。 ⑧ ⑩印は加点項目である。⑤ □1)においては、新工種における特殊工事で、技術的税拠を基とに監督員と協議的した新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す	出来形及び出来ばえ Ⅰ.出来形		要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね50%以内で、下記の「評定対象項目」の4項目以上	要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつ6%以内で、下記の「評定対象項目」の3項目以上	要な測定項目について所定の測定基準に で所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の概ね80%以内で、下記の「評定対象項目」の3項目以	要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格にき満足し、そのばらつさが規格値きが、規格値の概ね80%以内で、下記の「評定対象項目」の2項目以上	要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a~b'に該当し	は測定値が不適切で あったため、監督員が 文書で指示を行い改善された。 又は検査時に検査員 の指摘を受け、監督し 事を行った。ただし、手 直し工事の程度が小さ	は測定値が不適りあったため、監督員は検査時の指摘にる修補を行った。
□3) 写真管理基準の管理項目及び管理点数が基準を満足している。 □4) 不可視部分の出来形が、写真で確認できる。 □5) 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □6) その他 ① 出来形を理とは、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点角」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「□]評価とする。 ③ ⑩印は加加資目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す			出来形管理表または管		表示箇所」または「測点毎」	と記載された測定項目を含む	む)及び工事完成図が、過	に検査員により確認で きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること	
□4) 不可視部分の出来形が、写真で確認できる。 □5) 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □6) その他 □1 出来形の評定は、工事全般を適じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(WI・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 □ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ⑥ ⑨印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的規拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す		⊚ □2)	出来形管理の結果が、	施工計画書に設定した自社	比施工管理基準を管理点数	の8割以上で満足しているこ	ことが確認できる。		
 □□5) 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と協議の上で管理していることが確認できる。 □□6) その他 ① 出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事証で理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □□1)の「対法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点毎」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「ご」評価とする。 ⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す 					満足している。				
□6) その他 ① 出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点毎」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(Wi・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(Wi・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「□」評価とする。 ⑥ ◎印は加点項目を設定していない工事は「□」評価とする。 ⑥ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す					- 昨叔呂し切詳のして竺田	81 プリンスニ しが攻却 不キス			
① 出来形の評定は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点毎」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「。」評価とする。 ⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す				プロイル ていない 土作に ブいく	、、血自貝と励識の工で官場	EUCいることが推認できる。			
② 出来形とは、設計図書に示された工事目的物の形状及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点毎」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ⑧ ⑨印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す		٥٥/	C 07 IE						
③ 出来形管理とは、「土木工事施工管理基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点毎」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す						① 出来形の評定は、	工事全般を通じて評定する	ものとする。	
値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ □1)の「寸法表示箇所」と記載された測定項目とは、堰堤工、橋台躯体工、橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点毎」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す						② 出来形とは、設計図	図書に示された工事目的物	の形状及び寸法をいう。	
橋脚躯体工などの設計図面の寸法表示箇所のことである。 ⑤ □1)の「測点毎」と記載された測定項目とは、護岸工・流路工の幅(W1・W2)など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1・W2・W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す									見格
など、横断面図等に寸法表示がなくても管理すべき測定項目のことである。 ⑥ □1)において、道路改良工事に必要な測定項目(W1·W2·W3)を管理していない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す									
ない場合は評価しない。 ⑦ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 ⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価す									2)
⑧ ◎印は加点項目である。5)については、新工種における特殊工事で、技術的根拠を基に監督員と協議の上新たに管理基準を設けた場合に限定して評価する。						ない場合は評価しない	0		·()
						⑧ ◎印は加点項目で 的根拠を基に監督員と	ある。5)については、新工協議の上新たに管理基準	種における特殊工事で、技術 を設けた場合に限定して評価	
								1	

様式土3-5(1)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	ロにレマ	アークを記入する。					2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及	コンクリート		品質関係の試験結果	具のばらつきと評価対象項目	の履行状況(評価値)から判	断する。		□ 品質関係の測定方法	□ □品質関係の測定方
び出来ばえ	構造物工事		[関連基準、土木工事	事施工管理基準、その他設計	図書に定められた試験]、	※バラツキの判断は様式	3-9図参照	又は測定値が不適切	法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質		●評価:	対象項目					であったため、監督員 が文書で指示を行い	切であったため、監督 員又は検査時の指摘
п. ш.		□1)	施工基面が平滑に仕	上上げられ、浮き石、ゴミ、湧:	水及び滞水等を排除して施コ	こされていることが確認できる	5.	改善された。	による修補を行った。
		□2)	埋戻し材料が設計図 が確認できる。	書の仕様を満足しているとと	状に仕上げられていること				
		□3)	設計図書に基づくコンる。	クリートが使用されており、適切	なコンクリートの品質(強度・w/	c・最大骨材粒径・アルカリ骨木	オ反応抑制等)が確認でき	の指示により手直し工 事を行った。ただし、手	
		□ 4)	コンクリート受け入れ	.時に必要な試験を実施して	おり、温度、スランプ、空気量	、塩基総量、単位水量等の	測定結果が確認できる。	直し工事の程度が小さい場合(チェリア東の	
	☆			‡に適した運搬・打設時間、打	設時の投入高さ及び締固め			い場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 に検査員により確認で	
		□6)	圧縮強度試験に使用	したコンクリート供試体が当	該現場の供試体であることだ	が確認できる。		きた場合)は、「d」より	
		□7)	コンクリートが、必要を	な強度に達した後に型枠及び	「支保工の取り外しを行ってし	いることが確認できる。		上位の評価とすること	
		□8)	コンクリートの打設前に残されてないことか		「適切に行なわれているととも	たに、脱型後に、型枠の締め	付け材がコンクリート表面	ができる。	
		□9)	鉄筋の品質が証明書						
		□10)	鉄筋の引張強度・曲	げ強度が試験値で確認でき	న 。				
		□11)	コンクリート打設まで	にさび、どろ、油等の有害物	・・ が鉄筋に付着しないよう管理	されていることが確認できる	, >.		
		□12)	鉄筋の組立及び加工	」が、設計図書を満足している	ることが確認できる。				
		□13)	鉄筋を露出した状態	で完了する場合、防錆の処置	置が適切に行われていること	が確認できる。			
		□14)	圧接作業は有資格作	F業員が行っていることが確認	忍できる。				
	*	□15)	コンクリートの養生が	、定められた条件を満足して	いることが確認できる。				
					た条件を満足し、鉄筋のかる	ぶりを確保していることが確認	忍できる。		
		□17)	コンクリートの圧縮強	度を管理し、工期内に28日	鱼度が確認できない場合は 監	監督員と所定の協議を行って	いる。		
		□18)	コンクリート構造物に	有害なクラックがない。	※様式土3-9を参照				
		□19)	その他						
			3 1.2						
						(A)1/2	カ「萩畑牡魚頂口・のこと	対象としない項目は削除する	
			●判断基準			0		対象としない項目は削除する 評価項目数を母数として計算	·
			評価値が90%以上・・			②前り		/印刷が日外では外外にして引昇	しに加十1/0/日 弁ツ胆し
			評価値が80%以上90			③評信	五値(%)=該当項目	数 () /評価対象項目数	
1			評価値が70%以上80	0%未満·····b		_		なが 2 項目以下の場合は c 評価	
			評価値が60%以上70	0%未満·····b′				考えられる重要項目 (☆印) -	
			評価値が60%未満・・	·····с		は、青	平価値にかかわらず「a」ま	:たは「a'」 の評価はしない。	
						<u> </u>		T	

様式土3-5(2)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

「記入方法」 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検 査 員)

[記入方法]	該当する項目の	ロにレマ	アークを記入する。						2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'		С	d	е
3, 出来形及	土工事		品質関係の試験結果の	のばらつきと評価対象項目の	D履行状況(評価値)から判	断する。			□ 品質関係の測定方法	□□品質関係の測定方
び出来ばえ	(切土、盛土、			施工管理基準、その他設計	図書に定められた試験]、	※バラツキの判断に	は様式3-9図参	照	又は測定値が不適切 であったため、監督員	法又は測定値が不適 切であったため、監督
Ⅱ.品質	堤防等工事)	●評価:	対象項目						であつにため、監督員 が文書で指示を行い	切でめつににめ、監督 員又は検査時の指摘
ш. ни ж		□1)		入が起こらないように、排水		笙認できる。			改善された。	による修補を行った。
		□2)		うき行われていることが確認					又は検査時に検査員	
		□3)		そ行うにあたり、掘削面以下を					の指摘を受け、監督員	
	☆	□4)		巻き出し厚、含水比、転圧機	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				の指示により手直し工 事を行った。ただし、手	
		□5)		が設計図書に定められた条件					直し工事の程度が小さ	
		□6)		が設計図書に定められた条		忍できる。			い場合(手直し工事の	
		□7)		図書を満足していることが確					完了が検査の翌日中	
	☆	□8)		酒め試験(CBR試験))及て	が現場密度の測定等必要な	試験を行っている。			に検査員により確認で	
		□9)	法面に有害な亀裂がな		## 1 \$1 				きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること	
		□10)		発生した伐開木、根株、枝条		•			ができる。	
		□11) □12)		石等の危険がないように緩		れている。				
		□12)		実施され、残土処分量が資料	判により確認できる。					
		□13)	その他							
			●判断基準				① 当該「誕価社	毎百日」のうち	■ 対象としない項目は削除する	
			評価値が90%以上・・・・	·····a			0 -10 - 10 - 1)評価項目数を母数として計算	× II I
			評価値が80%以上90%	հ未満·····a′			評価する。			
			評価値が70%以上80%	未満・・・・・b			③評価値(数() /評価対象項目数	
			評価値が60%以上70%	未満・・・・・b′			0 , ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		なが2項目以下の場合は c 評価 考えられる重要項目(☆印)	_ / _ 0
			評価値が60%未満・・・・	•••••с			11		たは「a' の評価はしない	
							は、日間間につい	77 42 9 7 · a] &		

様式土3-5(3)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

「記入方法」 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検 査 員) 考查項目 細別 a' h h' С Ч 3. 出来形及 護岸・根固・水 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 □ 品質関係の測定方法 □ □品質関係の測定方 び出来ばえ 制工事 「関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験」、 ※バラツキの判断は様式3-9図参照 又は測定値が不適切 法又は測定値が不適 であったため、監督員 切であったため、監督 ブロック(石)積 ●評価対象項目 が文書で指示を行い 員又は検査時の指摘 工(張工) [共通] Ⅱ.品質 改善された。 による修補を行った。 基礎工(護岸)において、掘り過ぎがなく施工しているとともに、施工基面が平滑に仕上げられ、浮き石、ゴミ、湧水及び滞水等を排 \square 1) 又は検査時に検査員 除して施工されていることが確認できる。 の指摘を受け、監督員 □2) 埋戻し材料が設計図書の仕様を満足しているとともに、巻出し、転圧が適切に施工され、設計図に示す形状に仕上げられていること の指示により手直し工 が確認できる。 事を行った。ただし、手 □3) 設計図書に基づくコンクリートが使用され、コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施している。加えて、コンクリート供試体が当該現場 直し工事の程度が小さ の供試体であることが確認できる。 い場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 ☆ □4) 施工条件や気象条件に適した運搬・打設時間、打設時の投入高さ及び締固め・養生方法が定められた条件を満足していることが確 に検査員により確認で 認できる。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) きた場合)は、「d」より コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理、面取りが適切に行われているとともに、脱型後に、型枠の締め付け材がコンクリート表面に 上位の評価とすること 残されてないことが確認できる。 ができる。 コンクリートが、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 \square 7) コンクリートの圧縮強度を管理し、工期内に28日強度が確認できない場合は、監督員と所定の協議を行っている。 □8) 指定材料の規格が、品質を証明する書類で確認できる。 |囗9) 製品にひび割れ等の損傷なく設置されているとともに、ゴミ・泥等が付着してないことが確認できる。 □10) 植生工で、植生の種類、品質、配合、及び養生が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □11) コンクリート構造物に有害なクラックがない。 ※様式土3-9を参照 「護岸工、ブロック(石)精工(張工)] ☆ □12) 裏込材及び胴込めコンクリートの締固めが、空隙が生じていないよう十分行われており、抜型枠の処理が適切であることが確認でき □13) 緑化ブロック、石積(張)、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸出しがないよう行われていること が確認できる。 ☆【□14) 水抜き孔は適切な位置に設けられ、吸い出し、目詰まりのないよう施工されている。 伸縮目地は適切な位置に設けられている。 □16) 丁張りを3重に設けるなど、法勾配、裏込め材の厚さの確保のため細心の注意をはらっている。 ┃□17) 石積(張)エにおいて、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □18) 護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性が確保されていることが確認できる。 「根固め・水制工・植生工」 □19) 遮水シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □20) 根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 (根固工では連結金具のネジ山つぶしが確認できる。) □21) その他 ①当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ②削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で ●判断基準 評価値が90%以上・・・・・a 評価する。 評価値が80%以上90%未満·····a' %)=該当項目数()/評価対象項目数(④なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 評価値が70%以上80%未満・・・・b ⑤当工種の中で品質を左右すると考えられる重要項目(☆印)が実施されていない場合 評価値が60%以上70%未満・・・・b' 評価値が60%未満・・・・・・c は、評価値にかかわらず「a | または「a'| の評価はしない。

様式土3-5(4)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 (検査員) 2018/1/1 以降

	<u> </u>		, CHB, 1, 00							(), 4 //
考査項目	細別		а	a'	b	b'		С	d	е
-, -,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	鋼橋工事		HAPPING A PROPERTY	のばらつきと評価対象項目の					□ 品質関係の測定方法	
び出来ばえ	(RC床版工事は			施工管理基準、その他設計	図書に定められた試験]、	※バラツキの判断に	は様式3-	·9図参照	又は測定値が不適切 であったため、監督員	法又は測定値が不適 切であったため、監督
Ⅱ. 品質	コンクリート橋工事								が文書で指示を行い	りでめつたため、監督 員又は検査時の指摘
##32			操作関係]						改善された。	による修補を行った。
		□1)		証明する書類又は現物によ		認できる。			又は検査時に検査員	
	× 1111700 175	□2)		業員の技量確認を行っている					の指摘を受け、監督員の指示によります。	
	[水管橋・水門・			接材料の使用区分が設計区		とが確認できる。			の指示により手直し工 事を行った。ただし、手	
	樋門工(扉体工)			十画書が提出されていること			_		直し工事の程度が小さ	
		□5) - ->		まくれが削りとられているなと	:、きめ細やかに製作されて	こいることが確認できる	် ့		い場合(手直し工事の	
		□6) -	7 TIME 70 70 5 1	れないことが確認できる。					完了が検査の翌日中	
		□ 7)		布面を十分に乾燥させて施工			_		に検査員により確認で きた場合)は、「d」より	
		□8)		第1種ケレン後4時間以内に		ていることが確認できん	5 .		上位の評価とすること	
		□9)		いて写真等で確実に空である		ノ业目に加売します			ができる。	
		□10)		明書、塗料成績表により、製	宣年月日、ロット番号、巴彩	が、数重か確認できる。	1			
		[架設]		1+++- =1/3 / 2/11 / 1 + 1	. 7 - 1 /STM=T-+ 7					
		□11) □12)		『施され、記録が保管されてし		- +7				
		□12) □12)		定機器のキャリブレーション						
		□13)		が、中心から外側に向かって	(行われ (いることが唯認)	ぐさる 。				
		□14) □15)	高力ボルトの品質証明		しばエにむねをおろいて	こいファレムミアなますってもつ				
				Jート面のチッピング及び仕₋ の応力と変形等を十分検討し		いることが唯能できる	0 0			
		□16) □17)		の心力と変形寺で下が検討し なび架設用機材については、		増し沙舟を大士で し	よぎなますって	:± 7		
		□17) □18)		び来設用機材については、 なび膜厚管理が適切に行われ		(民と)独及を行りること	が惟祕で	さ る。		
		□18) □19)		ひ戻厚官垤か過切に行われ 度、湿度、風速等の確認がん		± 7				
		□19)	現场 空装に おいて、 温	艮、涇艮、風迷寺の傩認か1	すわれ ていることが 唯認 じさ	≘ る。				
		□20)	その他							
			●判断基準			ſ	①当該「訂	評価対象項目」のうち、対	†象としない項目は削除する。	
							O		平価項目数を母数として計算し	た比率(%)計算の値で
			評価値が90%以上・・・・	_			評価する。	*		,
			評価値が80%以上90%	₄未満·····a′			③評価値	(/-/ /-/	女()/評価対象項目数	` ′
			評価値が70%以上80%				O		ヾ2項目以下の場合はc評価と ぎえられる重要項目(☆印)カ	,
			評価値が60%以上70%				O		5んりれる重要項目(以中)// 上は「a' の評価はしない。	-
			評価値が60%未満・・・・	·····с			1本、肝臓1	ETEN WAYDY (a) A/	-1~ ペコ ・2年間は40,47.9	
						<u>L</u>				

様式土3-5(5)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検 査 員) 考查項目 細別 С □ 品質関係の測定方法 □ □品質関係の測定方 砂防構造物工事 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 3. 出来形及 又は測定値が不適切 法又は測定値が不適 び出来ばえ 及び 「関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験」、 ※バラツキの判断は様式3-9図参照 であったため、監督員 切であったため、監督 ●評価対象項目 地すべり防止 Ⅱ. 品質 が文書で指示を行い 員又は検査時の指摘 工事(集水井戸 [共诵] 改善された。 による修補を行った。 工事を含む) 施工基面が平滑に仕上げられ、浮き石、ゴミ、湧水及び滞水等を排除して施工されていることが確認できる。 □1) 又は検査時に検査員 の指摘を受け、監督員 **埋戻し材料が設計図書の仕様を満足しているとともに、巻出し、転圧が適切に施工され、設計図に示す形状に仕上げられていること** の指示により手直し工 が確認できる。 事を行った。ただし、手 設計図書に基づくコンクリートが使用されており、適切なコンクリートの品質(強度・w/c・最大骨材粒径・アルカリ骨材反応抑制等)が確認でき □3) 直し工事の程度が小さ い場合(手直し工事の コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量、塩基総量、単位水量等の測定結果が確認できる。 **□**4) 完了が検査の翌日中 施工条件や気象条件に適した運搬・打設時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が定められた条件を満足していることが確認でき に検査員により確認で る。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) きた場合)は、「d lより 上位の評価とすること 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 □6) ができる。 コンクリートが、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理、面取りが適切に行なわれているとともに、脱型後に、型枠の締め付け材がコンクリート表面 □8) に残されてないことが確認できる。 地山とのすりつけが適切に行われていることが確認できる。 □9) □10) 鉄筋及び鋼材の規格が、品質を証明する書類等で確認できる。 □11) 鉄筋の引張強度・曲げ強度が試験値で確認できる。 ☆【□12) コンクリートの養生が、定められた条件を満足していることが確認できる。 □13) コンクリートの圧縮強度を管理し、工期内に28日強度が確認できない場合は監督員と所定の協議を行っている。 [砂防構造物工事に適用] □14) 止水板が適正な位置に配置されている。 □15) 鉄筋の組立及び加工が、設計図書を満足していることが確認できる。 □16) コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理されていることが確認できる。 □17) アンカーの施工が設計図書を満足していることが確認できる。 ①当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 □18) グラウトの注入にあたり、グラウトが孔内から排出されるまで連続して注入作業が行われている。 ②削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%) 計算の値で評価する。 □19) ボルトの締付確認が実施され、記録が保管されていることが確認できる。 ③評価値(%)=該当項目数()/評価対象項目数() □20) ボルトの締付機及び測定機器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。 ④なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 「地すべり対策工事(抑止杭・集水井戸を含む)] ⑤当工種の中で品質を左右すると考えられる重要項目 (☆印) が実施され □21) アンカーの施工が設計図書を満足していることが確認できる。 ていない場合は、評価値にかかわらず「a」または「a'」 の評価はしない。 □22) ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。

□23) ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工していることが確認できる。

□25) コンクリート構造物に有害なクラックがない。

□26) その他

□24) 集・排水ボーリングエの方向及び角度が適正となるように施工上の配慮がなされていることが確認できる。

※様式土3-9を参照

●判断基準

評価値が90%以上・・・・・・a 評価値が80%以上90%未満・・・・a 評価値が70%以上80%未満・・・・b 評価値が60%以上70%未満・・・・b 評価値が60%未満・・・・・・c 様式土3-5(6)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 (検 査 員) 2018/1/1 以降 考查項目 a' b' С 舗装工事 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 □ 品質関係の測定方法 □ □品質関係の測定方 3. 出来形及 又は測定値が不適切 び出来ばえ 法又は測定値が不適 [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験]、 ※バラツキの判断は様式3-9図参照 切であったため、監督 であったため、監督員 ●評価対象項目 Ⅱ. 品質 が文書で指示を行い 員又は検査時の指摘 「路床・路盤工関係」 改善された。 による修補を行った。 設計図書に定められた試験方法で路床及び路盤材料の基準密度・CBR値を測定していることが確認できる。 又は検査時に検査員 路床及び路盤エのプルーフローリングを行っていることが確認できる。(既設路床・路盤を含む。) $\square 2$ の指摘を受け、監督員 路床及び路盤工の密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 \square 3) の指示により手直しエ 路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石及び有害物を除去し、材料を均一に敷均していることが確認できる。 **□**4) 事を行った。ただし、手 路床盛土において、一層の仕上がり厚を20cm以下とし、各層ごとに締固めており、また構造物の隣接箇所や狭い箇所における締 直し工事の程度が小さ 固めが、タンパ等の小型締固め機械により施工していることが確認できる。 い場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 に検査員により確認で [アスファルト舗装工関係] きた場合)は、「d」より □6) アスファルト混合物の品質が配合設計及び試験練りの結果または、事前審査制度の証明書類により確認できる。 上位の評価とすること □7) 舗装工の施工にあたって、上層路盤面の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。 ができる。 ☆┃□8) プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録し、気象条件等に配慮して敷均し、締固め を適切に行っており、また舗設後の交通の開放が、定められた条件を満足していることが確認できる。 □9) 各層の継ぎ目の位置が、設計図書に定められた数値以上であることが確認できる。 □10) 縦継目及び横継目の位置、構造物との接合面の処理等が設計図書の仕様を満足しており、また瀝青材料を所定量均一に散布し、 養生していることが確認できる。 □11) アスファルト舗装工の密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 「コンクリート舗装工関係】 □12) 設計図書に基づくコンクリートが使用されており、適切なコンクリートの品質(強度・w/c・最大骨材粒径・アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 □13) 舗装工の施工に 先だって、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。 □14) コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量、塩基総量等の測定結果が確認できる。 □15) 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 ☆ □16) 運搬時間、打設方法及び養生方法等が、施工条件及び気象条件に適しており、仕様書に定められた条件を満足していることが確認できる。 □17) 材料が分離しないようコンクリートがを敷均されていることが確認できる。 ①当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 □18) チェアー及びタイバーが、損傷などが発生しないよう保管されていることが確認できる。 ②削除項目のある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で □19) 鉄網及び目地処理が適切に施工されていることが確認できる。 評価する。 □20) コンクリート構造物に有害なクラックがない。 ※様式土3-9を参照 %)=該当項目数()/評価対象項目数() ④なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 「橋面防水工関係] ⑤当工種の中で品質を左右すると考えられる重要項目(☆印)が実施されていない場合 □21) 床板表面の凹凸が少なく、ゴミなどが確実に除去されていることが確認できる。 □22) 使用材料の品質が証明書類で確認でき、輸送、保管が適切に行われていることが確認できる。 □23) 気象状況を考慮して施工しており、施工前にコンクリート表面の含水率を測定し確認している。 ●判断基準 ☆ □24) 防水シートの貼付けが気泡等が生じないよう入念に施工され、重ね部が適切に処理されていることが確認できる。また生じた気泡等 評価値が90%以上・・・・・a が適切に補修されていることが確認できる。 ☆ □25) 塗布材料(塗膜系防水材、プライマー、貼付用アスファルト等)がむらなく均一に、かつ表面に損傷等が生じないよう施工され、養生さ 評価値が80%以上90%未満·····a' れていることが確認できる。また生じた損傷が適切に補修されていることが確認できる。 \square 26) 端部(排水桝・伸縮装置周り、歩車道境界部等)の処理が設計図書どおりに行われていることが確認できる。 評価値が70%以上80%未満・・・・b 評価値が60%以上70%未満・・・・b' □27) その他 評価値が60%未満・・・・・・c

様式土3-5(7)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	ロにレマ	ークを記入する。		, , ,	"与五头口》				2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別		а	a'		b	b'		С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	海岸工事	□ □	HARAMAN A CANTAG	₹のばらつきと評価対象項 事施工管理基準、その他記					照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切 であったため、監督員	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため、監督
Ⅱ、品質		□1) □2) □3) □4) □5) □6) □7) □8) □10) □11) □12) □13) □14) □15) □16) □17) □18) □19) □20) □21)	る。コンクリートで表表では、ログロのでは、ログロのでは、ログロのでは、ログロのでは、ログロのでは、ログロのでは、ログロのでは、ログロがは、ログは、ログは、ログロがは、ログのは、ログロがは、ログのは、ログロがはののではのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのはのは	旧したコンクリート供試体かな強度に達した後に型枠がいま置及び仮置にあたっていようにコンクリートブロックが平坦に仕上げられているないよう堅固に施工されて料の規格・品質が試験成別なく所定の幅で重ね合わけは潮位観測を実施して記場に備えて施工前に避難場	て、バース・のこい積せ録所 き物いれし日い いいのといるまらしの るがるたい度がこ現れて確 。鉄と条るがはない度がになって、	温度、スランプ、空気量の投入高さ及び締固め 別の供試体であることが にの取り外しを行っている。 に行っていたことが確認 できる。 が確認をきる。 が確認できる。 が確認できる。 が確認できる。 が確認できる。 がなことが確認できる。 はなび退避設備の対策 に付着しないよう管理 には、よう管理 には、ないない。	、塩基総量、単位水量等の方法が定められた条件が確認できる。いることが確認できる。とできる。とできる。といることが確認できる。ときを講じていることが確認できる。となることが確認できる。といることが確認できる。といることが確認できる。といることが確認できる。といることが確認できる。といることが確認できる。といることが確認できる。といることが確認できる。といることが確認できる。	等の測定結果がを満足している。できる。できる。 できる。	が確認できる。	が、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな、大きな	員又は検査時の指摘による修補を行った。
			その他	●判断基準 評価値が90%以上 評価値が80%以上 評価値が70%以上 評価値が60%以上	 .90%未満 .80%未満 .70%未満	•a ·····a' ·····b ·····b'		②削除項目のお評価する。 ③評価値(④なお、削除行 ⑤当工種の中で	ある場合は削除後の %)=該当項目 後の評価対象項目数で品質を左右する。	対象としない項目は削除するの評価項目数を母数として計算 目数 () /評価対象項目数 数が2項目以下の場合はc評(と考えられる重要項目(☆印) または「a'」の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 数 () 面とする。 が実施されていない場合
				評価値が60%以上 評価値が60%未満				は、叶川旭にん	7-W-4299 A] 8		·o

様式土3-5(8)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検 査 員)

[記入方法]	該当する項目の	ロにレマ	アークを記入する。					2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	法面工事 (NO.1)		[関連基準、土木工事	のばらつきと評価対象項目の 施工管理基準、その他設計			3-9図参照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切 であったため、監督員	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため、監督
Ⅱ. 品質	☆	共通]	施工基面が平滑に仕使用する材料のり、源面が平滑に大きましたが料のり、源面を対して、客主吹付工、客生では一工をでででは、客では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	壊試験(PH)を実施し施工に 損、端部のめくれ等がなく、対 種層、複層の施工が行われ、 芽しているのが確認できる。 け工関係] 足する配合設計が行われ、そ アンカー位置・間隔、重ね幅、 よう跳ね返り材料の処理を行 したコンクリートの供試体が	を満足していることが確認でて、監督員の事前の承認を 実施していることが確認できる に反映している。 地山に沿って隙間なく施工し 均等に地山に吹き付けされ その結果に基づき実施され、 地山からの離隔、法肩の巻 っていることが確認できる。 当該現場の供試体であること 当該現場の供試体であること	きる。 受けて適正に施工しているこ る。 ていることが確認できる。 ていることが確認できる。 吹付け厚さが均等であること き方等)されていることが確認できる。	とが確認できる。 認できる。	の文書では、 で指示。 で指示。 で指示。 で表示をできる。 で表示をできる。 で表示をできる。 で表示で、 で表示をできる。 できる。 できる。 の指示できる。 にたして、 できる。 できる。 のにできる。 のにできる。 のにできる。 をして、 できる。 のにできる。 のにできる。 のにできる。 のにできる。	員又は検査時の指摘 による修補を行った。
				評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70%	《未満·····a ['] 《未満·····b	②削除エ 評価する ③評価値 ④なお、	頁目のある場合は削除後の評 5。 直(%)=該当項目数 削除後の評価対象項目数が	価項目数を母数として計算し () /評価対象項目数(2項目以下の場合はc評価と えられる重要項目(☆印)が) する。
				評価値が60%未満・・・・	·····с	は、評価	価値にかかわらず「a」また	は「a'」の評価はしない。	

様式土3-5(9)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検 査 員)

[記人力法]	該ヨッる項目の)口にレマークを記入する。)				2018/1/1 以降	(検 登 貝)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及	法面工事	□ 品質関係の試験	験結果のばらつきと評価対象項目の	の履行状況(評価値)から判	断する。		□ 品質関係の測定方法	□ □品質関係の測定方
び出来ばえ	(NO.2)	[関連基準、土	木工事施工管理基準、その他設計	図書に定められた試験]、	※バラツキの判断は様式3	-9図参照	又は測定値が不適切	法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質		●評価対象項目					であったため、監督員 が文書で指示を行い	切であったため、監督 員又は検査時の指摘
世. 叩貝		[現場打法枠工関係]					改善された。	による修補を行った。
		□16) 設計図書の仕	様を満足する配合設計が行われ、そ	その結果に基づき実施されて	ていることが確認できる。		又は検査時に検査員	0.01211121131140
	☆		筋等が現場において適正に保管さ	れ、設計図書どおりの長さ	、位置、間隔で施工しているこ	とが確認できる。	の指摘を受け、監督員	
			「ないことが確認できる。				の指示により手直し工 事を行った。ただし、手	
			ごないよう跳ね返り材料の処理を行				直し工事の程度が小さ	
			『採取され、圧縮強度試験結果が適		確認できる。		い場合(手直し工事の	
		I— — — — — — — — — — — — — — — — — —	置、方法、間隔等が適切に処理され	にいる。			完了が検査の翌日中	
			証明書類で確認できる。				に検査員により確認で	
			隻・曲げ強度が試験値で確認できる	•			きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること	
		□24) コンクリート構造	造物に有害なクラックがない。	※様式土3-9を参照			ができる。	
		[落石防止工関係]		11.65. 12. 一	\$74=T - 1 7			
			-打ち込みヶ所の表土は取り除かれ		が確認できる。			
	*		架、削孔径が規定値を満たし、固定 スルを答との充続は2月が7877また。					
			トミルク等)の充填状況が確認できる ビアクロス	5.				
			が確保されている。	1.1.4 中心で到った!				
		□29) 岩盤用アンカー	-ボルト及び羽根付アンカーの打ち	込み角度が確認できる。				
		 「グランドアンカー工関係	£1					
	- A		ĸ』 −エの削孔は位置、削孔径、長さ、:	方向が設計図書に示された	とおり 宝施されていることが	(確認できる		
	A	· ·	-エの削孔終了後、スライムが除去			「HEDIC CC 00		
		_ , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	が設計注入圧を超えていないことが		٥ لا			
			・種試験が、事前に提出された試験		いることが確認できる。			
			こ設置されていることが確認できる。		OCCO REDUCCE OF			
				•	① 当該「評価計算	・ 象項目」のうち、対象とした。	い項目け削除する	
			▲ 4川 №广 廿 7年				ない受ける的にありる。 女を母数として計算した比率(%	る)計算の値で
			●判断基準		評価する。			
			評価値が90%以上・・・・	·····a	③評価値(%) =該当項目数 ()	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
			評価値が80%以上90%	未満·····a′		り評価対象項目数が2項目し 3.質を左右すると考えられる	从下の場合はc評価とする。 5重要項目(☆印)が実施され	ていない担合
			評価値が70%以上80%	未満••••b	I 0	ngを左右するころんりれる かわらず「a」または「a'		(く ' なく ' 物口
			評価値が60%以上70%	未満・・・・b′	パム、 計1 1 担パーパッパ	パ4ンりり「a」または「a゚	マノ町1川はしない。	
			評価値が60%未満・・・・	····с				

様式土3-5(10)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	口にレマ	一クを記入する。						2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'		С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	法面工事 (NO.3)			のばらつきと評価対象項目の 施工管理基準、その他設計			ま様式3-9図参	⋟照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質			対象項目 維補強土工関係] 築造勾配が適切で、厚 連続繊維の混入量が 砂質土の最面水の切り 築造後の跳ね返り砂の 補強土の一面せん断 築造量や繊維計量器 裏面排水材が適切に アンカーを設計図書ど アンカーの削孔終了後 保水、保肥材を設計図	でさが均等であることが確認で 管理され、適切な配合量であ 験を行い、適切な配合量であ り除去・清掃を行っていること 試験を実施し、所定の強度か のキャリブレーションが実施	できる。 5ることが確認できる。 5ることが確認できる。 5ることが確認できる。 5が確認できる。 6本でいる。 6本では、 6本では、 7本では、 7本では、 7本では、 7本では、 7本では、 7本では、 7本では、 7本では、 7本できる。 7本では、 7本できる。 7本では、 7本できる。 7本できる。 7本できる。 7本できる。 7本では、 7本では	ことが確認できる。			であったため、を が文書でおったでおったで指示。 でおきさ検査を受ける。 をは指示によった。 をは指示によった。 をは指示によった。 をとエーロー・ をと、 をと、 をと、 をと、 をと、 を、 を、	切であったため、監督員又は検査時の指摘による修補を行った。
			●判断基準 評価値が90%以上・・・ 評価値が80%以上909 評価値が70%以上809 評価値が60%以上709 評価値が60%未満・・・・	ā未満・・・・・a′ i未満・・・・・b i未満・・・・・b′			②削除項目の 評価する。 ③評価値(④なお、削除 ⑤当工種の中	ある場合は削除後の %) =該当項 後の評価対象項目 で品質を左右する。	対象としない項目は削除するの評価項目数を母数として計算 目数 () /評価対象項目数 数が 2 項目以下の場合は c 評価 と考えられる重要項目 (☆印) または「a'」 の評価はしない	章した比率(%)計算の値で 数 () 西とする。 が実施されていない場合

様式土3-5(11)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方注]	該当する項目の	□にレマークを記入する。	— 于 / 》 (· • · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	进川级(工作工	T /	2018/1/1 以降	(検 査 員)
者查項目	級当りる項目の 細別	コニレスノで記入りる。	a'	h	b'	C	2010/1/1 以阵	(快宜貝) e
7475	基礎工事及び	a □ 品質関係の試験結果の	<u> </u>	<u> </u> 履行状況(評価値)から判	~	U	□ 品質関係の測定方法	 □ □品質関係の測定方
	地盤改良工事		施工管理基準、その他設計図			3-9図参照	又は測定値が不適切	法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質	(NO.1)	●評価対象項目					であったため、監督員 が文書で指示を行い	切であったため、監督 員又は検査時の指摘
4. 叩貝		[杭関係共通]					かえ音で描ぶを行い 改善された。	による修補を行った。
			が無いことが確認できる。	_ #==== - 1 .1 .0+= W	-1		又は検査時に検査員	
	☆		D方法及び場所打ち杭の施工 カケカスの場所にある。		「おり、その記録が整理されて	ていることが確認できる。	の指摘を受け、監督員 の指示により手直しエ	
		,	本体を損傷していないことが [:] 全度、鉛直度等が設計図書		スキ ス		事を行った。ただし、手	
		□4) 掘削機械の水平度、安 [コンクリート杭、鋼管杭]	王皮、鉛但皮寺が設計凶音	を油圧していることが唯認	් රිපිතිං		直し工事の程度が小さ	
		[コングリードが、顕音が] □5) 杭の仮置き方法が適り	Πである				い場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中	
		,	っている。 って、設計図書に定められた(仕様を満足していることがる	確認できる。		元」が検査の翌日中 に検査員により確認で	
			ことが、掘削深さ、掘削土砂				きた場合)は、「d」より	
		[場所打杭(オールケイシング、					上位の評価とすること ができる。	
			レミー管をコンクリート内に2n					
		□9) 掘削深度、排出土砂、 が確認できる。	孔内水位の変動及び安定液	を用いる場合の孔内の安置	定液濃度並びに比重等が設	計図書を満足していること		
		□10) 設計図書に基づくコンク! る。	J-トが使用されており、適切な	にコンクリートの品質(強度・w/	c・最大骨材粒径・アルカリ骨材	†反応抑制等)が確認でき		
		□11) コンクリート受け入れ問	に必要な試験を実施しており	り、温度、スランプ、空気量	、塩基総量、単位水量等の流	則定結果が確認できる。		
		□12) 施工条件及び気象条件		の投入高さを適切に行って	こいる 。			
		□13) 鉄筋の品質が証明書類		(#5 by E) (\$ 1 A 1 E A	<i>- - - - - - - - - -</i>			
		□14) 鉄筋の引張強度・曲げ						
		□15) コンクリート打設までさ □16) 鉄筋の組立及び加工が			されていることが確認できる	0		
		□17)			::いを確保! ていろことが確認	アマラス		
			では扱かは水音に足められた 『を管理し、工期内に28日強』					
			C 1 - 10 (1) / 1 - 10 H JA			- •		
			●判断基準		①当	該「評価対象項目」のうち、	★ 対象としない項目は削除する	<u>[</u>
			評価値が90%以上・・・・・		~ -		の評価項目数を母数として計算	
						する。	D#L / \ /55/mLl/2-75 D#	
			評価値が80%以上90%		U - 111		目数 () /評価対象項目数 数が 2 項目以下の場合は c 評価	
			評価値が70%以上80%		0		& ************************************	
			評価値が60%以上70%		は、	評価値にかかわらず「a」	または「a'」の評価はしない	١,
			評価値が60%未満・・・・	····с				
					<u></u>			

様式土3-5(12)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入する。		······································	(连川玖 (土小土	 /	2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別	a	a'	b	b'	С	d	e
3, 出来形及	基礎工事及び	□ 品質関係の試験結果の	Dばらつきと評価対象項目の	履行状況(評価値)から判	断する。		□ 品質関係の測定方法	□ □品質関係の測定方
び出来ばえ	地盤改良工事	[関連基準、土木工事]	施工管理基準、その他設計図	図書に定められた試験]、	※バラツキの判断は様式3	3-9図参照	又は測定値が不適切	法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質	(NO.2)	●評価対象項目					であったため、監督員 が文書で指示を行い	切であったため、監督 員又は検査時の指摘
и. ше		[深礎杭]					改善された。	による修補を行った。
		□19) ライナープレートの組み			エしていることが確認できる。	0	又は検査時に検査員	
		□20) 裏込材注入の圧力など					の指摘を受け、監督員	
			クの比重管理などの品質に				の指示により手直し工 事を行った。ただし、手	
			ノタル)が設計図書に基づく配				直し工事の程度が小さ	
			に必要な試験を実施しており			則定結果が確認できる。	い場合(手直し工事の	
			‡に適した運搬時間、打設時 エーマを記つさる	の投入高さを適切に行って	こいる。		完了が検査の翌日中	
		□25) 鉄筋の品質が証明書類		/EF-E7 E7 IS A A L A IB A -	<i>+</i>		に検査員により確認で きた場合)は、「d」より	
			強度が試験値で確認できる。				上位の評価とすること	
		_ ,	び、どろ、油等の有害物が、釒		されていることが確認できる。	0	ができる。	
		□28) 鉄筋の組立及び加工が □29) コンクリートの圧縮強度	が、設計図書を満足しているこ		た叔呂 L 配 中の协議をなって	1.7		
		129) コングリートの圧縮短点 [鋼管井筒基礎工]	とで官理し、工規内に20日張	とい唯心 じさない 場合は 1	宣首員と別 足の 励 識を打つ (いる。		
		【 30	Πでなる					
		-	てめる。 、て、設計図書に定められたf	+様を満足していることがス	盗羽できる			
			に必要な試験を実施しており			確認できる		
		□33) 施工条件及び気象条件					<u> </u> のうち、対象としない項目はi	別除する
		□34) 鉄筋の品質が証明書			Ψ6		のりら、対象としない項目は 削除後の評価項目数を母数と	· · · · · · - III
		_ ,	強度が試験値で確認できる。	(監督員が立会した場合:	を含む。)	の値で評価する。	INVESTI MENTINGER SECTION CO.	0 (1194-07271 (7071194
		口36) コンクリート打設までさ				JI	該当項目数 () /評価対	*
		□37) 鉄筋の組立及び加工が	が、設計図書を満足しているこ	ことが確認できる。			象項目数が2項目以下の場合に	
		[地盤改良関係]				1	右すると考えられる重要項目	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
		□38) 施工地盤は不陸整正る	れ、安定剤が路床土と均一	に攪拌混合されていること	が確認できる。	い場合は、評価値にかか	わらず「a」または「a'」 0	ノ評価はしない。
		□39) 安定剤の散布及び混合	合時に粉塵等の対策が実施さ	られている。				
		□40) 置き換え堀削深さ及び	幅は設計書どおり確保され、	一層の敷均し厚は所定の	仕上がり厚で十分に締め固め	められている。		
		□41) サンドドレーン・ペーパ	ードレーンエ法では、材料の	使用量が記録されている。				
		□42) 改良材のバッチ管理記	!録が整理され、設計図書の作	士様を満足していることが	確認できる。			
		□43) セメントミルクの比重、	スラリー噴出量、強度等の管	理資料が、整理されている	ることが確認できる。			
		,	返し、改良材の選定、必要添 加				●判断基準	
			きれているとともに、十分な				評価値が90%以上・・・・	••••a
		□46) 設計図書に示された☆	:価クロム溶出試験が行われ	、監督員の承諾がなされて	こいることが確認できる。		評価値が80%以上90%	
							評価値が70%以上80%	
		□47) その他					評価値が60%以上70%	
							評価値が60%未満・・・・	····с

様式土3-5(13)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

				一十次限而人		ほ川及、エハエ	· ナ/		
	該当する項目の	ロにレマーク	を記入する。			•	1	2018/1/1 以降	(検査員)
			а	a'	b		С	d	е
考査項目 3、出来形及 び出来ばえ II. 品質	*	□ [] ■ [] ■ [] [] [] [] [] □ [] [] [] □ [] [] [] □ [] [] [] □ [] [] [] □ [] □ [] [] □ [] □ [] [] □ [] □ [] [] □ [] □ [] □ [] □ [] [] □ []	関連基準、土木工事が項目 項目 工基面が平滑に仕上 大型にとが見れていることでは、 大型にとができます。 大型にとができます。 大型には、 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に 大型に	のばらつきと評価対象項目の 施工管理基準、その他設計図 にげられ、浮き石、ゴミ、湧水が設計図書の仕様を満足している。 に必要な試験を実施しておいたコンクリート供試体が当該 で適した運搬・打設時間、打設 で、打継ぎ目処理、面取りが通	図書に定められた試験]、 及び滞水等を排除して施コいるとともに、巻出し、転圧 り、温度、スランプ、空気量 現場の供試体であることが な時の投入高さ、締固め方だ。) 値切に行なわれているととで 更が確認できない場合は監 場部を適切に補修している。 第の資料が整っている。 組立製品の連結等の適じ	※バラツキの判断は様式 にされていることが確認できる。 にが適切に施工され、設計区 、塩基総量、単位水量等の が確認できる。 法及び養生方法が定められ もに、脱型後に、型枠の締め 監督員と所定の協議を行って	3-9図参照 る。 川に示す形状に仕上げられ 測定結果が確認できる。 た条件を満足していること 付け材がコンクリート表面	□ 品質関係の測定方法 又は測定値め、定方 であったため、監行い であったため、監行い 改善された。 又は検査時に検査督 の指摘示によりりまだし、 事を行った。ただが事 し工事の程度が事 い場合(手直しエヨ中 完了が検査の翌日中	e □□品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため、監督 員又は検査時の指摘 による修補を行った。
				●判断基準 評価値が90%以上・・・・・ 評価値が80%以上90%を 評価値が70%以上80%を 評価値が60%以上70%を 評価値が60%未満・・・・・	未満・・・・a′ 未満・・・・b′ 未満・・・・b′	② 評析 ③ 計 ④ が ⑤ 当	削除項目のある場合は削除後 面する。 評価値(%)=該当項 よお、削除後の評価対象項目 当工種の中で品質を左右する	、対象としない項目は削除す。の評価項目数を母数として計 目数 () /評価対象項目 数が2項目以下の場合はc評 と考えられる重要項目(☆印) または「a'」の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 数 () 価とする。) が実施されていない場合

様式土3-5(14)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

考査項目 細別 a a' b b' c d d の の の の の の の の の の の の の の の の の	[=1 1 +2+1	···· まりまえるログ		一十八恨几人	ᆞᄼᄀᆸᇧᆸᄽ	连川致(土小土	T /	0010 /1 /1 以7夕	(
3. 出来形及 び出来ばえ			プロにレイークを記入する。 T	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , 				2018/1/1 以降	(検査員)
T事(PC及び RCを対象) I. 品質 間連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験]、※バラツキの判断は様式3-9図参照 評価対象項目			a 口筋眼体の学覧体型		B在此识(范伊佐) (1.2.4m)		С	-	_
□15) 使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。 □16) PC鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □17) ブレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □19) コンクリート圧縮強度を管理し、工期内に28日強度が確認できない場合は監督員と所定の協議を行っている。 □20) コンクリート構造物に有害なクラックがない。 ※様式土3-9を参照 □21) その他 ■判断基準 評価値が80%以上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	考査項目 3, 出来形及 び出来ばえ	細別 コンクリート橋 工事(PC及び RCを対象)	a □ 品質関係の試験結果 [関連基準、土木工事 ●評価対象項目 □1) 設計図書に基づくコンク る。 □2) コンクリート受け入れに □3) 圧縮強度は試験に使用 □4) 施工条件や及び □4) 施工条件や及び □5) コンクリートが、必要な □6) 鉄筋の品質が証明書 □7) 鉄筋の引張強度・曲に □8) コンクリート打設設格に □9) 圧接作業は有資が証明書 □10) 鉄筋の組立及び表生のに □10) 鉄筋の組立及び表生のに □11) コンクリートの最大のでに □11) コンクリート圧縮なび □11) プレズトレッシエ縮強に □11) コンクリート圧縮強に □19) コンクリート構造物に	一の施工管理基準、その他設計図を実施に対象の他設計図では、適切ない。適切ない。適切ない。適切ない。適切ない。適切ない。適切ない。適切ない。	図書に定められた試験]、 図書に定められた試験]、 ロンクリートの品質(強度・w/ リ、該現場のようで統立を は、であ締ちでいる。 は、ではいる。 は、ではいる。 は、ではいる。 は、ではいる。 は、ではいる。 は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	断する。 ※バラツキの判断は様式 「c・最大骨材粒径・アルカリ骨材は、塩基総量、単位水量等のには、塩基総量、単位水量等のにとが確認できる。 の方法が定められた条件を満いることが確認できる。 はされていることが確認できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 を用いていることが確認できる。 を用いていることが確認できる。 を別していることが確認できる。 を別していることが確認できる。 を別していることが確認できる。	3-9図参照 対反応抑制等)が確認でき 対反応抑制等)が確認できる。 則定結果が確認できる。 足していることが確認でき 。 な できる。 な できる。 な の に な に な	d □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	● □ □品質関係の測定方法又は測定値が不適質関係の測定方法又は測定値が不適質員又は検査時の指摘による修補を行った。 5。 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

様式土3-5(15)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

				— ナ/ ツ (スロ) ス				T /		
EHET TO THE	該当する項目の	カロにレっ	マークを記入する。						2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'		С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	塗装工事		And the transfer of the transf	のばらつきと評価対象項目の 施工管理基準、その他設計			様式3	3-9図参照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質	*	●評価 □1) □2) □3) □4) □5) □6) □7) □8) □9)	ケレンを入念に実施し 天候状況の確認、気温 塗料を使用前に撹拌し 鋼材表面及び被塗装可 塗料の空缶管理につい 塗り残し、ながれ、しわ 溶接部、ボルトの接合	布面を十分に乾燥させて施 ていることが確認できる。 温及び湿度の測定を行い塗製 、容器の塗料を均一な状態 面の汚れ、油類等を除去し塗 いて写真等で確実に空である。 等が無く塗装されていること 部分、構造の複雑な部分に 明書、塗料成績表により、製		であったため、を	切であったため、監督員又は検査時の指摘による修補を行った。			
				●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	ā未満·····a′ ā未満·····b ā未満·····b′		②削 評価 ③評価 ④なす ⑤当	染項目のある場合は削除後の する。 価値(%)=該当項目 お、削除後の評価対象項目数 工種の中で品質を左右すると	対象としない項目は削除する 評価項目数を母数として計算 数 () /評価対象項目数 が 2 項目以下の場合は c 評値 考えられる重要項目 (☆印) たは「a'」 の評価はしない	を した比率(%)計算の値で な () 話とする。 が実施されていない場合

様式土3-5(16)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	□にレマークを記入する。	— 于 / 次 (表面) 人	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	注 川	ず /	2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	*	[関連基準、土木工 ●評価対象計画	果のばらつきと評価対象項目の事施工管理基準、その他設計区が明されており、適切ない時に必要な試験を実施試験を実施試験を実施では、打造のは、打造のでででは、では、というでは、はいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいうでは、はいいいうでは、はいいいうでは、はいいいいいは、はいいいいいうでは、はいいいいいは、はいいいいいいは、はいいいいいいいいいは、はいいいいいいいい	図書に定められた試験]、 コンクリートの品質(強度・w/ リ、温度、スランプ、空気量 該現場の供試体である国の な時の投入高さ及び締固の とが確認できる。 条件を満足し、ないよう管理 いることが確認でででしていることが がの境界を確足していることが に付着にいることが に対していることが にない。 に対していることが にいることが にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる にいる	※バラツキの判断は様式ので・最大骨材粒径・アルかり骨材は、塩基総量、単位水量等の別とが確認できる。の方法が定められた条件を満まれていることが確認できる。た仕様を満足していることが確認できるが確認できる。確認できる。確認できる。 一層の厚さが15cm以下で増加していることが確認できる。 一層の厚さが15cm以下で増加していることが確認できる。	反応抑制等)が確認できる。別定結果が確認できる。 別定結果が確認できる。 足していることが確認でき できる。 。 確認できる。 。 也山と密着するよう施工し る。	直し工事の程度が小さい場合(手直し工事の 記場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 に検査のはい「は」より 上位の評価とすること ができる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	- 未満・・・・・b 未満・・・・・b′	評価する。 ③評価値(④なお、削除後 ⑤当工種の中で	%)=該当項目数(6の評価対象項目数が2項目	数を母数として計算した比率) /評価対象項目数() 以下の場合は c 評価とする。 る重要項目(☆印)が実施さ '」の評価はしない。	

様式土3-5(17)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

「記入方法]	該当する項目の	ロにレマ	ークを記入する。	— 于 / % (% (1)		是加致、工作	 /	2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'	С	d	е
考査項目 3. 出来形及び出来ばえ Ⅱ. 品質	及 防護柵(網)・ 標識・区画線等 設置工事	●評価3 □1) □2) □3) □4) □5) □6) □7) □8) □9) □10) □11) □12) □13) □14)	品質関係の試験結果の 「関連基準、土木工事」 対象項目 防護柵の設置基準、視 防護柵等のま産掘りの付 防護柵等の支柱の施ニガードケーブルので対したを支柱 ガードケーブルのでの式のでが がでイントの組立式、見 医画線の施工にあたった。 でいましている。 のには、のには、 でいましている。 のには、 でいましている。 のには、 でいましている。 でいましてい	a' Dばらつきと評価対象項目の施工管理基準、その他設計區 線誘導標設置基準、道路標 に上がり面において、地山の語 を工にあたって、既設舗装面へ にあたって、既設舗装面へ に取付ける場合、設計図書に 支柱を土中に設置する場合に が変計のでは、点検記録等に 可線に使用するシンナーの使用 で設計図書に定められた仕 はの施工では、常に180~2 ので設置路面の水分、泥、砂 とって、路面に均等に塗布し 画線等の材料が、設計図書に 画線等の材料が、設計図書の	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため、監督 員又は検査時の指摘 による修補を行った。			
				●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	未満·····a′ 未満·····b 未満·····b′		①当該「評価対象項目」のうち ②削除項目のある場合は削除後 評価する。 ③評価値(%)=該当項 ④なお、削除後の評価対象項目 ⑤当工種の中で品質を左右する よ、評価値にかかわらず「a」	の評価項目数を母数として計 目数 () /評価対象項目 数が2項目以下の場合はc評 と考えられる重要項目(☆印)	算した比率(%)計算の値で 数 () 価とする。) が実施されていない場合

様式土3-5(18)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入する。	— 于 / / / / / / / / / /		~ (11)	· — -	2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ II. 品質	植栽工事	□ 品質関係の試験 [関連基準、土木 ●評価対象項目 [共通]	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切 であったため、監督員 が文書で指示を行い 改善された。	□ □品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員又は検査をできます。				
	*	□1) 土壌硬度試験及 □2) 活着が促される。 □3) 樹木等の生育に □4) 樹木などに損等(8) □5) 土壌改良び移植[高中低木植栽及び後、発(1) □7) 移植木の直接樹木の直接樹木 □9) 植えた樹木につきが □10) 添木をぐらっきが [地被類植栽] □11) 芝、地被は病害!□12) 地被植物は草姿	び土壌試験(PH)を実施し施工に反よう管理していることが確認できる。 害のある害虫等がいないことが確 はちくずれ等が無いよう保護養生 重類、施用量、施用方法等)は適切] 剰枝の剪定、整形その他必要な手。 屈り取り、剪定、運搬、養生等)が適 の根に触れないよう均一に施肥し して余裕のある植穴を堀り、植穴良いよう設置していることが確認で 虫がなく、生育・緊密度に優れ、雑! ま、草勢、ポット内の根茎等の品質の が適切で活着している。		による修補を行った。			
		□14) その他	●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	未満・・・・・a´ 未満・・・・・b 未満・・・・・b´		②削除項目のある場合は削除後 評価する。 ③評価値(%)=該当項 ④なお、削除後の評価対象項目 ⑤当工種の中で品質を左右する	、対象としない項目は削除する の評価項目数を母数として計算 (目数 () /評価対象項目数 数が2項目以下の場合はc評価 と考えられる重要項目 (☆印) または「a'」の評価はしない	・ () ・ () ・ とする。 が実施されていない場合

様式土3-5(19)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入する。	— T /X/1XII / C		(E/I) & (II)	- /	2018/1/1 以降	(検査員)
		a	a'	b	b'	С	d	e e
考査項目 3. 出来ばえび出来ばえ Ⅱ. 品質	細別 港湾築造工事 (浚渫海岸築造 工事を含む) (NO.1)		e □□品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員又は検査時の指摘による修補を行った。					
	*	□14) マットが破損なく所定の□15) 被覆石及び根固め石が□16) 裏込めが既設構造物の[本体:杭及び矢板、控工関係]□17) 鋼材の規格・数量がミ□18) 鋼材の保管にあたり、□19) 杭及び矢板の打止めの	がゆるみのないよう堅固に施 及び防砂目地板の破損がなく ルシート等(現物照合を含む) 変形及び塗覆装面に損傷を- D施工管理方法等が整備され	ことが写真記録等により確 工され、記録により確認で (施工され、記録により確認)で確認できる。 与えないよう、適切に処置 って、かつ記録が確認できる。	認できる。 きる。 むできる。 は されている。 は	②当該「評価対象項目」のうち ②削除項目のある場合は削除後 呼価する。 ②評価値(%)=該当項 ③なお、削除後の評価対象項目 ③当工種の中で品質を左右する は、評価値にかかわらず「a」	の評価項目数を母数として計算 目数 () /評価対象項目 数が 2 項目以下の場合は c 評値 と考えられる重要項目 (☆印)	算した比率(%)計算の値で 数 () 西とする。 が実施されていない場合
		□21) タイロッドは隅角部等料 □22) タイワイヤーは隅角部 □23) 溶接及び切断について [本体:ケーソン据付、ブロック排 □24) ケーソン仮置に先立ち □25) ケーソン及び既設構造 □26) ケーソンの据え付けの	仮置場を調査し、所定の位置	対して直角に設置されてい線に対して直角に設置されいられたとおり行われている 登に異常なく仮置きされてい でいる。 面に付着している貝・海草类	いる。 ている。 ことが確認できる。 いることが確認できる。		●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	未満・・・・a´ 未満・・・・b 未満・・・・b´

様式土3-5(20)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	ロにレマ	アークを記入する。	— - 7 ///(XII /	200万五次日75	,	- - - 7	2018/1/1 以降	(検査員)		
考査項目	細別		а	a'	b	b'	С	d	е		
3, 出来形及び出来ばえ II. 品質	(NO.2) ☆	●評価: [コング] □28) □29) □30) □31) □32) □33) □34) □35) □36) □37) □38) □39) □40)	る。 □29) コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量、塩基総量、単位水量等の測定結果が確認できる。 □30) 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 □31) 施工条件や気象条件に適した運搬・打設時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が定められた条件を満足していることが確認できる。 □32) コンクリートが、必要な強度に達した後に型枠、支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 □33) 鉄筋の品質が証明書類で確認できる。 □33) 鉄筋の引張り強度・曲げ強度が試験値で確認できる。 □35) コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理されていることが確認できる。 □36) 鉄筋の組立及び加工が、設計図書を満足していることが確認できる。 □37) スペーサーの品質及び個数が仕様書に定められた条件を満足し、鉄筋のかぶりを確保していることが確認できる。 □38) コンクリートの養生が、定められた条件を満足していることが確認できる。 □39) コンクリートの圧縮強度を管理し、工期内に28日強度が確認できない場合は監督員と所定の協議を行っている。								
		L141)	て の 地	●判断基準 評価値が90%以上・・・ 評価値が80%以上909 評価値が70%以上809 評価値が60%以上709 評価値が60%未満・・・	%未満・・・・·a′ %未満・・・・·b %未満・・・・·b′	② # ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	削除項目のある場合は削除後 西する。 平価値(%)=該当項 なお、削除後の評価対象項目 当工種の中で品質を左右する	、対象としない項目は削除す。 の評価項目数を母数として計: 目数 () /評価対象項目: 数が2項目以下の場合はc評と考えられる重要項目(☆印) または「a'] の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 数 () 価とする。) が実施されていない場合		

様式土3-5(21)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入する。				,	2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	ほ場整備工事		そのばらつきと評価対象項目の 事施工管理基準、その他設計[式3-9図参照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切	法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質	☆	□2) 畦畔及び法面が充分□3) 石礫や雑物が適正に [水路工] [農道工] □4) 水路及び構造物の坦□5) 水路及び構造物の担□6) 水路構造物に損傷が□7) コンクリート2次製品□8) 付帯構造物が設計図□9) 適正な水路勾配で施□10) 道路路体の転圧が3		であったため、監督い が書でれた。 で大きでれた。 で大きされた。 で大きされた。 で大きさに、に が着をより、手が、 をして、 で大きでは、 で大きでは、 で大きでは、 で大きでは、 で大きでは、 できる。 できる。 できる。	切であったため、監督 員又は検査時の指摘 による修補を行った。			
			●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	未満・・・・・a´ 未満・・・・・b 未満・・・・・b´		別除項目のある場合は削除 呼価する。 別評価値(%)=該当項 のお、削除後の評価対象項 の対工種の中で品質を左右する。	5、対象としない項目は削除する 後の評価項目数を母数として計算 頁目数 () /評価対象項目 引数が 2 項目以下の場合は c 評価 3 と考えられる重要項目 (☆印) または「a'」 の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 数 () 面とする。 が実施されていない場合

様式土3-5(22)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

				- ** ·J - L · X III // '	~ ' ' ' ~ ' - ' ' - ' - ' - ' - ' - ' -	- 1 - /		
[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入する。					2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ Ⅱ. 品質	暗渠排水工事 (湧水処理) ☆	□ 品質関係の試験結果の [関連基準、土木工事) ●評価対象項目 □1) 掘削底面が平滑に仕」 □2) 管路勾配が 適正に施 □3) 管路の接続が適正であ □4) 被覆材、疎水材が仕梢 □5) 埋め戻しが適正に施工	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が、監行いであったため、監督いであったため、監督に が文書で指示を行い改善された。 又は検査を時に検査負 の指病により、手直し、事を行った。ただし、またでして事の程度が小さ	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため、監督 員又は検査時の指摘 による修補を行った。				
		□6) その他	●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90%	-			い場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 に検査員により確認で きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること ができる。	
			評価値が70%以上80%評価値が60%以上70%評価値が60%未満・・・・	未満・・・・・b 未満・・・・・b′	② 育 ② 言 ④ た ⑤ 1	川除項目のある場合は削除後 面する。 F価値(%)=該当項 はお、削除後の評価対象項目 当工種の中で品質を左右する。	対象としない項目は削除する の評価項目数を母数として計算 目数 () /評価対象項目 数が 2 項目以下の場合は c 評 (と考えられる重要項目 (☆印) または「a'] の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 数 () 西とする。 が実施されていない場合

様式土3-5(23)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

	•			一一一一个小人们			1 · — /			
[記入方法]	該当する項目の	口にレマ	アークを記入する。						2018/1/1 以降	(検 査 員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'		С	d	е
3. 出来形及	管水路工事(パ		品質関係の試験結果の	りばらつきと評価対象項目の)履行状況(評価値)から判	断する。			□ 品質関係の測定方法	□ □品質関係の測定方
び出来ばえ	イプライン)、畑		[関連基準、土木工事	施工管理基準、その他設計[図書に定められた試験]、	※バラツキの判断に	は様式3-9図参	注照	又は測定値が不適切	法又は測定値が不適
	かん工事、営	●評価	対象項目					****	であったため、監督員	切であったため、監督
Ⅱ. 品質	農飲雑用水工		掘削底面が平滑に仕」	ナげられている。					が文書で指示を行い	員又は検査時の指摘
	争	□2)		、空気弁等)の据付及び接合。	◇が海正に施工されている				改善された。	による修補を行った。
	×	□2) □3)		、エメガサルが店で及び扱う		0			又は検査時に検査員 の指摘を受け、監督員	
				-より掃め回めか关心されて こ示す条件により実施されて		+ 纯田索产类)			の指示により手直し工	
		□4) □ - 2)					しょミアカー・マー・フ		事を行った。ただし、手	
		□5) -		川着時、舗設時等において、			とか唯認できる。		直し工事の程度が小さ	
		□6)		運搬及び舗設にあたって、気					い場合(手直し工事の	
		□7)		密度管理が設計図書の仕様	を満足していることが確認。	できる。			完了が検査の翌日中	
		□8)	材料の品質が証明書類	頃で確認できる。					に検査員により確認で	
		□9)	通水試験を適正に行い	ヽ、漏水の有無等を確認して	いる。				きた場合)は、「d」より	
		□10)	その他						上位の評価とすること ができる。	
									<i>が.</i> Ceる。	
				●判断基準			①当該「評価対	象項目」のうち、	対象としない項目は削除する	
				評価値が90%以上・・・・	·····a		②削除項目のあ	5る場合は削除後σ)評価項目数を母数として計算	した比率(%)計算の値で
				評価値が80%以上90%	未満·····a′		評価する。			
				評価値が70%以上80%			③評価値(数()/評価対象項目数	• • •
				評価値が60%以上70%			0 - 1 1 11111 5		対が2項目以下の場合はc評価	/
				評価値が60%未満・・・・	- 1 - 11 - 1				:考えられる重要項目(☆印)	
							■は、評価値にか	いかわらず「a」ま	ミたは「a'」の評価はしない	•
						,				

様式土3-5(24)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

			— ナ/ツ/スu l 人	- */ 		- - -		
[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入する。					2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	木製構造物工 事	[関連基準、土木工事]	りばらつきと評価対象項目の 施工管理基準、その他設計[断する。 ※バラツキの判断は様式	3-9図参照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切 であったため、監督員	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため 監督
Ⅱ. 品質	*	□2) 中詰、裏込材の詰め込 □3) 施工基面が平滑に仕	が設計図書等のとおりである ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	なくなるよう施工されていることが確認できる。			であったため、監督員 が文書で指示を行い 改書で指示を行い 改善検査を受け、を な指摘を受け、手 の指摘を受け、手 を を を を は は を と は り に し ま を し ま の を と り に た た た た た た た た た た た た た た た た た た	
			評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70%	評価値が80%以上90%未満・・・・・a ②削除項目のある場合			対象としない項目は削除する D評価項目数を母数として計算 目数 () /評価対象項目数 数が 2 項目以下の場合は c 評価 と考えられる重要項目 (☆印) または「a'」 の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 女 () 面とする。 が実施されていない場合

様式土3-5(25)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

	-1.00 1		— - 7000000000000000000000000000000000000		~ () () ()	· 		//A + 5.
[記入方法]		口にレマークを記入する。	_		_	-	2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別	а	a'	b	b'	С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	鋼製自在枠工 事	[関連基準、土木工事	のばらつきと評価対象項目の 施工管理基準、その他設計[ま式3-9図参照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切 であったため、監督員	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため、監督
Ⅱ. 品質	☆	□2) 鋼材の組立やボルトの □3) 中詰材の詰め込みがう □4) 施工基面が平滑に仕。 □5) 掘削を行うにあたり、割	がミルシート等で確認できる。 締め付けの適切な施行が、 適切であり、空隙が少なくなる とげられている。 强削面以下を乱さないようにが が適切に実施されている。	点検記録等により確認でき るよう施工されている。	÷ చెం		でのかきにとれる。 がすきな者には、ないます。 で指示にはなるできない。 では検査を受け、監直し、いまではは摘を受け、監直し、いまででは、 事を行った。た程度が事でして事では、 できるのでは、「は、「は、」となるには、「は、」となるには、「は、」となるには、「は、」となるには、「は、」となるには、「は、」となるには、「は、」となるには、「は、」となるには、「は、」といってきた場合には、「は、」といってきた。	員又は検査時の指摘 による修補を行った。
	評価値が80%以上・・・・・・・。						5、対象としない項目は削除す 5、対象としない項目は削除す 後の評価項目数を母数として計 頁目数 () /評価対象項目 目数が 2 項目以下の場合は c 評 5 と考えられる重要項目 (☆印 または「a'」 の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 数 () 価とする。) が実施されていない場合

様式土3-5(26)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

	該当する項目の	□にレマ-	ークを記入する。			_			2018/1/1 以降	(検査員)
香項目	細別		а	a'	b	b'		С	d	е
出来形及 おまばえ	補強土壁工事		[関連基準、土木工事	のばらつきと評価対象項目 <i>の</i> 施工管理基準、その他設計			は様式3-9 図	参照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切 であったため、監督員	□ □品質関係の測定 法又は測定値がる 切であったため、
品質	*	□2) □3) □4) □5) □6) □7) [テール: □8) □9) □10) □11) [ジオテ=□12) □13) □14)	施工基面が平滑に仕 盛土材は、材料試験が 現場条件に応材等の 整土材、壁面材料の 壁面材等のお 場合に有事な を 要品に有事な アルメ、多数アンカー] 壁面材と補強材の取付 が 透水防砂材の取付が きなイル] 壁面材とジオテキスタ ジオテキスタイルは壁 ジオテキスタイルは壁		でいる。 J、巻き出し厚・敷均し、転圧に講じられいる。 ある。 管理資料より確認できる。 に補修している。 录等により確認できる。 いる。 の適切な施工が、点検記銀に敷設され、適度に緊張・固	最等により確認できる。		けできる。	でかつまでただが、 ま管い を	員又は検査時の打による修補を行った。
				●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	ā未満·····a′ ā未満·····b ā未満·····b′	②i 評 ③i ④; ⑤:	削除項目のある 価する。 評価値(なお、削除後の 当工種の中で品	場合は削除後の評価%) =該当項目数評価対象項目数が 質を左右すると考え	をとしない項目は削除する。 西項目数を母数として計算した。 () /評価対象項目数(2項目以下の場合は c 評価とす たられる重要項目 (☆印) が実 は「a'」の評価はしない。) る。

様式土3-5(27)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

				— 于 / 次 (汉山 人		是加致、二、	· —			
		ロにレ	マークを記入する。						2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別		а	a'	b	b'		С	d	е
3, 出来形及 び出来ばえ	軽量盛土工事		[関連基準、土木工事	のばらつきと評価対象項目 <i>の</i> 施工管理基準、その他設計			 は様式3-9図参!	照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適
Ⅱ. 品質	●評価対象項目 □1) 発泡スチロールブロック(以下「発泡材」)の設置基面が平滑に仕上げられている。 □2) 地下水の排水や雨水排水が適切に行われ、レベリング層がドライな状態に保たれている。 □3) 発泡材の保管・管理が適切に行われている。 □4) 発泡材の目地の開き、段差が適切に処理されている。 □5) 発泡材部と盛土部間の隙間の埋戻しが適切に行われている。 □6) 発泡材のカットが適切に行われている。 □7) 発泡材の緊結金具の設置が適切に行われている。 □8) 製品の材質は適正で、品質が確認できる。 □9) 発泡材の割付図が提出されており、現場と一致している。 □10) その他								であったため、監督い が支書で指示を行い で表書で指示を行い で書で指示という。 を発音された。 以は検査を受け、を信し、 指示によった。 を監直し、 を監直し、 を監直し、 を関係を をして、 を関係を をして、 を関係を をして、 を関係を をして、 を関係を をして、 を関係を をして、 を を を を を を の を を の を を の を を の を を を の を を を の を を を の を を の を の を を の を の を を の に を を の に を を の に を を の に を に は 、 に は 、 に は 、 に は 、 に は 、 に は 、 に と し と し と と と と と と と と と と と と と と と	
				●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%以上70% 評価値が60%未満・・・・	未満・・・・・a′ 未満・・・・・b 未満・・・・・b′		②削除項目のあ 評価する。 ③評価値(④なお、削除後 ⑤当工種の中で	かる場合は削除後の %) =該当項目 の評価対象項目数 品質を左右する。	対象としない項目は削除するの評価項目数を母数として計算 目数 () /評価対象項目数 数が2項目以下の場合は c 評価 と考えられる重要項目 (☆印) または「a'」 の評価はしない	算した比率(%)計算の値で 女 () 面とする。 が実施されていない場合

様式土3-5(28)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]	該当する項目の	口にレマークを記入する。		2018/1/1 以降	(検査員)
考査項目	細別	a a' b b'	С	d	е
	橋梁補修 修繕工事	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験]、 ※バラツキの判断は様式3−9図	図参照	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切 であったため、監督員	□ □品質関係の測定方 法又は測定値が不適 切であったため、監督
Ⅱ. 品質		 ●評価対象項目 【クラック補修(ひびわれ注入)】 □1) 施工面の泥等を除去していることが確認できる。 □2) クラックの中心位置に注入器を取り付け、シール材硬化後に注入していることが確認できる。 □3) 主剤と硬化剤の攪拌、配合が適正に管理され、可使時間内の施工が確認できる。 □4) 天候等現場状況を確認し、気温、湿度等の計測を行い作業していることが確認できる。 □5) 注入材の硬化養生後、シール部を平坦に仕上げていることが確認できる。 □6) 使用する材料の品質・形状等が適切であり品質証明等により材料確認を行っていることが確認できる。 □7) その他 【橋果塗装】 □8) 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。 □9) ケレンを入念に実施していることが確認できる。 □10) 天候状況の確認、気温及び湿度の測定を行い塗装作業を行っていることが確認できる。 □11) 塗料を使用前に撹拌し、容器の塗料を均一な状態にしてから使用していることが確認できる。 □12) 鋼材表面及び被塗装面の汚れ、油類等を除去し塗装を行っていることが確認できる。 □13) 塗料の空缶管理について写真等で確実に空であることが確認できる。 □14) 塗り残し、ながれ、しわ等が無く塗装されていることが確認できる。 □15) 溶接部、ボルトの接合部分、構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。 □16) 塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。 	が文書で指示を行い 改善された。 又は検査時に検査員 の指摘を受け、監督員 の指示により手直し工 事を行った。ただし、手 直し工事の程度が小さい場合(検査の翌日中 に検査のに放って に検査員により確認で きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること ができる。		
	☆	[仲縮継手] □18) 既設伸縮装置撤去が適切に行われ、清掃されていることが確認できる。 □19) 鉄筋の加工・組立、アンカーの長さ及び定着等が適切であることが確認できる。 □20) コンクリート打設が適切に施工されていることが確認できる。 □20) コンクリート打設が適切に施工されていることが確認できる。 ⑤当工種	頁目のある場合は削除 ける。 直(%)=該当 削除後の評価対象項 重の中で品質を左右す	ち、対象としない項目は削除 後の評価項目数を母数として 項目数() /評価対象項 目数が2項目以下の場合はci ると考えられる重要項目(☆) a」または「a'」の評価は ●判断基準 評価値が90%以上・・・・ 評価値が80%以上90% 評価値が70%以上80% 評価値が60%よ満・・・・ 評価値が60%未満・・・・	計算した比率(%)計算の値 目数 () 評価とする。 印) が実施されていない場 しない。

様式土3-5(29)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

該当する項目の)ロにレマークを記入する	— -	·J <u>T</u> · X H // 1	是/13数 (二/14	-	2018/1/1 以際	(検 査 員)
	1	a'	h	h'	C		1
細別 橋梁補修 修繕工事 (NO.2)	a a' b b' c □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験]、 ※バラツキの判断は様式3−9図参照 ●評価対象項目 [含浸材塗布] □26) 高圧洗浄水等で洗浄後、基面を乾燥させていることが確認できる。 □27) 天候状況の確認、気温及び湿度の測定を行い塗装作業を行っていることが確認できる。 □28) 含浸材塗布が施工条件に配慮し、適切に施工されていることが確認できる。 □29) 塗布後の養生が適切に施工されていることが確認できる。 □30) 含浸材の空缶管理について写真等で確実に空であることが確認できる。 □31) 使用する材料の品質・形状等が適切であり品質証明等により材料確認を行っていることが確認できる。 □32) その他						員又は検査時の指 による修補を行った
□32) その他 [断面修復工] □34) はつり、防錆処理が適切にされていることが確認できる。 □34) プライマーが均一に塗布され、可使時間、養生が適切であることが確認できる。 □35) 攪拌、配合が適正に管理され、可使時間内の施工が確認できる。 □36) 充填後、雨水にさらされないよう養生されていることが確認できる。 □37) 断面修復後にクラックがないことが確認できる。 □38) 使用する材料の品質・形状等が適切であり品質証明等により材料確認を行っていること	o		に検査員により確認で きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること ができる。				
□39) その他 ①当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除す			評価項目数を母数として計算した				
棉修	細別 喬梁補修 多繕工事 NO.2)	需梁補修	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	個別	福別	細別 a a a a a a a a a a a a a a a a a a a	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##

様式土3-5(30)

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検 査 員) 考查項目 細別 С □ 品質関係の測定方法 □ □品質関係の測定方 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 3. 出来形及 又は測定値が不適切 法又は測定値が不適 び出来ばえ 上記以外のエ 「関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験」、 ※バラツキの判断は様式3-9図参照 であったため、監督員 切であったため、監督 ●評価対象項目 Ⅱ. 品質 が文書で指示を行い 員又は検査時の指摘 □1) 改善された。 による修補を行った。 □2) 又は検査時に検査員 □3) の指摘を受け、監督員 の指示により手直しエ **□**4) 事を行った。ただし、手 □5) 直し工事の程度が小さ **□**6) い場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 に検査員により確認で ●判断基準 きた場合)は、「d lより 該当項目が6項目以上 ··· a 上位の評価とすること 該当項目が5項目 ができる。 該当項目が4項目 該当項目が3項目 該当項目が2項目以下 ··· c 注 評価対象項目は6項目以上とする。 細別 b' a' С 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。 □ 品質関係の測定方法 □ □品質関係の測定方 又は測定値が不適切 法又は測定値が不適 上記以外のエ [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験]、 ※バラツキの判断は様式3-9図参照 であったため、監督員 切であったため、監督 ●評価対象項目 が文書で指示を行い 員又は検査時の指摘 **□1**) 改善された。 による修補を行った。 □2) 又は検査時に検査員 の指摘を受け、監督員 □3) の指示により手直し工 □4) 事を行った。ただし、手 直し工事の程度が小さ □5) い場合(手直し工事の 完了が検査の翌日中 **□**6) に検査員により確認で ●判断基準 きた場合)は、「d」より 上位の評価とすること 該当項目が6項目以上 ··· a 該当項目が5項目 ができる。 該当項目が4項目 該当項目が3項目 該当項目が2項目以下 ··· c 注 評価対象項目は6項目以上とする。

様式 + 3 - 6 ①

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検査員) d 考查項目 種 I 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及び コンクリート構造物工事 ●評価対象項目 ●判断基準 出来ばえ 砂防構造物工事 □1) コンクリート構造物の表面状態が良い。 該当5項目以上···a □2) コンクリート構造物の通りが良い。 海岸工事 該当4項目·····b 皿. 出来ばえ □3) 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 トンネルエ事 該当3項目・・・・・c □4) クラックがない。 該当2項目以下···d □5) 漏水がない。 □6) 全体的な美観が良い。 ●判断基準 土工事 ●評価対象項目 (盛土・築堤工事等) □1) 仕上げが良い。 該当4項目以上···a □2) 通りが良い。 該当3項目·····b □3) 天端及び端部の仕上げが良い。 該当2項目・・・・・c □4) 構造物へのすりつけなどが良い。 該当1項目以下···d 口5) 全体的な美観が良い。 □1) 切土法面の施工にあたって、法面の浮き石が除去されているなど、適切 切土工事 ●判断基準 に施工されている。 □2) 法面勾配の変化部について、干渉部を設けるなど適切に施工されてい 該当6項目以上・・・a □3) 施工面等の木根等が確実に施工処理されている。 該当4項目·····b □4) 滞水などによる施工面の損傷が発生しないよう処理が行われている。 該当3項目·····c □5) 関係構造物等との取り合いが設計図書を満足するよう施工さている。 該当2項目以下···d □6) 残土等は適切に処理されている。 □7) 全体的な美観が良い。 護岸・根固・水制工 ●評価対象項目 ●判断基準 |事、ブロック積工事 □1) 通りがよい。 該当4項目以上···a □2)材料のかみ合わせがよく、クラックがない。 該当3項目·····b □3) 天端及び端部の仕上げがよい。 該当2項目・・・・・c □4) 既設構造物とのすりつけがよい。 該当1項目以下···d □5) 全体的な美観が良い。 鋼橋工事 ●評価対象項目 ●判断基準 水管橋工事 □1) 表面に補修箇所がない。 該当4項目以上···a 水門・樋門工(扉体 □2) 部材表面に傷及び錆がない。 該当3項目·····b 工)工事

該当2項目·····c

該当1項目以下···d

□3) 溶接に均一性がある。

□4) 塗装に均一性がある。

□5) 全体的な美観が良い。

様式土3-6 ②

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検査員) d 考查項目 種 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3, 出来形及び 地すべり防止工事 ●評価対象項目 ●判断基準 出来ばえ □1) 地山との取り合いが良い。 該当3項目以上···a □2) 天端、端部の仕上げが良い。 該当2項目·····b 皿. 出来ばえ □3) 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 該当1項目·····c □4) 全体的な美観が良い。 該当項目なし・・・・・d 舗装工事 ●評価対象項目 ●判断基準 該当5項目以上···a □1) 舗装の平坦性が良い。(1.2以下) □2) 構造物の通りが良い。 該当4項目·····b □3) 端部処理が良い。 該当3項目·····c □4) 構造物へのすりつけ等が良い。 該当2項目以下···d □5) 雨水処理が良い。 □6) 全体的な美観が良い。 法面工事 □1) 通りが良い。 ●判断基準 □2) 植生、吹付等の状態が均一である。 該当6項目以上···a □3) 端部処理が良い。 該当4項目·····b □4) 全体的な美観が良い。 該当3項目・・・・・c □5) 湧水処理が良い。 該当2項目以下···d □6) クラックがない。 □7) 全体的にバラツキがなく発芽の状況が良好である。 基礎工工事 ●評価対象項目 ●判断基準 □1) 土工関係の仕上げが良い。 該当3項目以上···a (地盤改良等を含む) □2) 通りが良い。 該当2項目·····b □3) 端部及び天端の仕上げが良い。 該当1項目·····c □4) 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 該当項目なし・・・・・d コンクリート橋上部エ ●評価対象項目 ●判断基準 □1) コンクリート構造物の表面状態が良い。 該当6項目以上···a □2) コンクリート構造物の通りが良い。 該当4項目·····b □3) 天端及び端部の仕上げが良い。 該当3項目・・・・・c □4) 支承部の仕上げが良い。 該当2項目以下···d □5) クラックがない。

□6) 漏水がない。

□7) 全体的な美観が良い。

様式土3-6 ③

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

 [記入方法]
 該当する項目の口にレマークを記入する。
 2018/1/1 以降
 (検査員)

考査項目 工種 a b c 3, 出来形及び 出来ばえ 塗装工事 (工場塗装を除く) ●評価対象項目 □1) 塗装の均一性が良い。 □2) 細部まできめ細かな施工がされている。 □3) 補修箇所が無い。 □3) 補修箇所が無い。 □5) 全体的な美観が良い。 ●評価対象項目 ●判断基準 該当2項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	d 劣っている
慢れている やや優れている 他の評価に該当しない 3. 出来形及び 塗装工事 ●評価対象項目 ●判断基準	劣っている
出来ばえ □ 1) 塗装の均一性が良い。 □ 2) 細部まできめ細かな施工がされている。 □ 3) 補修箇所が無い。 □ 4) ケレンの施工状況が良好である。 □ 5) 全体的な美観が良い。 □ 4 ●評価対象項目 ■ 判断基準	
 Ⅲ. 出来ばえ □2) 細部まできめ細かな施工がされている。 該当3項目・・・・・・ b 該当2項目・・・・・・ c □4) ケレンの施工状況が良好である。 該当1項目以下・・・ d □5) 全体的な美観が良い。 植栽工事 ●評価対象項目 ●判断基準 	
□3) 補修箇所が無い。	
□3) 補修箇所が無い。 該当2項目・・・・・・c □4) ケレンの施工状況が良好である。 該当1項目以下・・・d □5) 全体的な美観が良い。 □	
□5) 全体的な美観が良い。 植栽工事 ●評価対象項目 ●判断基準	
植栽工事 ●評価対象項目 ●判断基準	
│□1) 樹木の活着状況が良い。	
□2) 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 該当4項目・・・・・・b	
□3) 支柱の取り付けが堅固である。 該当3項目······c	
□4) 生垣、列植等の通りが良い。 該当2項目以下・・・d	
□5) 全体の整地の仕上がり面が平滑で、美観が良い。	
□6) 石組みは適切に施工されている。	
□7) 全体的な美観が良い。	
防護柵(網)工事 □1) 通りが良い。 ●判断基準	
□2) 端部処理が良い。 該当5項目以上・・・a	
□3) 部材表面に傷及び錆がない。 該当4項目・・・・・・b	
□4) 既設構造物等とのすりつけが良い。 該当3項目・・・・・・c	
□5) きめ細やかに施工されている。 該当2項目以下・・・d	
□6) 全体的な美観が良い。	
標識工事 ●評価対象項目 ●判断基準	
□1) 設置位置に配慮がある。 該当4項目以上・・・a	
□2) 標識板の向き並びに角度及びその支柱の通りが良い。 該当3項目・・・・・・b	
□3) 標識板の支柱に変色がない。 該当2項目・・・・・・c	
□4) 支柱基礎が入念に埋め戻されている。 該当1項目以下・・・d	
□5) 全体的な美観が良い。	
区画線工事 ●評価対象項目 ●判断基準	
□1) 塗料の塗布が均一である。 該当4項目以上・・・a	
□2) 視認性が良い。 該当3項目・・・・・・b	
□3)接着状態が良い。 該当2項目・・・・・・c	
□4) 施工前の清掃が入念に実施されている。 該当1項目以下・・・d	
口5) 全体的な美観が良い。	

様式土3-6 ④

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検査員)

[記入刀法]	839の項目の口にレ	マーフを記入する。		2010/1/1 以阵	(快宜貝)
考査項目	エ 種	а	b	С	d
7.且识口		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3, 出来形及び	ほ場整備工事	●評価対象項目		●判断基準	
出来ばえ		□1) 整地仕上げが良い。		該当5項目以上···a	
ш ц т/+° ≥		□2) 石礫、雑物等が良好に処理されている	る。	該当4項目······b	
Ⅲ. 出来ばえ		□3) 水路、道路等が的確に施工されている	る。	該当3項目・・・・・c	
		□4) 付帯構造物が周辺の農地等との取り	J合わせが良い。	該当2項目以下・・・d	
		□5) 法面仕上げが良い。(とおり、すりつ)	ナ、勾配、浮石除去、転圧)		
		□6) 全体的な美観が良い。			
	暗渠排水工事	●評価対象項目		●判断基準	
		□1) 埋戻し、仕上げが良い。		該当4項目以上⋯a	
		□2) 石礫、雑物等が良好に処理されてい	る。	該当3項目······b	
		□3) 施工管理記録等から不可視部分の出	出来ばえの良さをうかがえる。	該当2項目······c	
		□4) 水閘、排水口の設置が的確である。		該当1項目以下···d	
		□5) 全体的な仕上がりが良い。			
	維持修繕工事	□1) 小構造物等にも注意が払われている	0.	●判断基準	
		□2) きめ細かな施工がなされている。		該当3項目以上···a	
		□3) 既設構造物とのすりつけが良い。		該当2項目······b	
		□4) 全体的な美観が良い。		該当1項目······c	
				該当項目なし・・・・・d	
	港湾築造工事	●評価対象項目		●判断基準	
	(浚渫、海岸築造工事	□1) 通りが良い。		該当4項目以上···a	
	を含む)	□2) 施工管理記録等から不可視部分の出		該当3項目······b	
		□3) 構造物の表面及び端部の仕上げが	良い。	該当2項目······c	
		□4) きめ細やかな施工がなされている。		該当1項目以下・・・d	
		□5) 全体的な美観が良い。			
	管水路工事	●評価対象項目		●判断基準	
	(パイプライン)	□1) 施工管理記録等から不可視部分の出	出来ばえの良さがうかがえる	該当3項目以上・・・a	
	畑かん工事(末端部	□2)漏水がない。		該当2項目······b	
	営農飲雑用水工事	□3) 路面復旧が適正に施工され段差、不	等沈下等が無い。	該当1項目·····c	
		□4) 全体的な仕上がりが良い		該当項目なし・・・・・d	

様式土3-6 ⑤

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 (検査員)

[記入刀法]	以 コッ の 次 口 の 口 に	レヤークを記入する。		2010/1/1 以阵	(快宜貝/
者 者 者 者	工種	а	b	С	d
34 74	_ '-	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	木製構造物工事	●評価対象項目		●判断基準	
出来ばえ		□1) 通りがよい。		該当4項目以上···a	
Ⅲ. 出来ばえ		□2) 材料のかみ合わせがよい。		該当3項目······b	
皿. 山木はん		□3) 表面の仕上げがよい。		該当2項目······c	
		□4) 地山立込部との取り合わせがよい。		該当1項目以下···d	
		□5) 全体的な美観がよい			
	鋼製自在枠工事	●評価対象項目		●判断基準	
		□1) 通りがよい。		該当4項目以上···a	
		□2) 材料のかみ合わせがよい。		該当3項目······b	
		□3) 表面の仕上げがよい。		該当2項目·····c	
		□4) 地山との取り合わせがよい。		該当1項目以下···d	
		□5) 全体的な美観がよい。			
	河川浚渫工事	●評価対象項目		●判断基準	
		□1) 掘削面が平坦で、仕上げが良い。		該当3項目以上···a	
		□2) 自然環境との調和に配慮している。		該当2項目······b	
		□3) 工事用道路等の後片付けが適切に加	布工されている。	該当1項目・・・・・・c	
		口4) 全体的な美観が良い。		該当項目なし・・・・・d	
	二次製品構造物	●評価対象項目		●判断基準	
	小型構造物工事	□1) 現場打コンクリート構造物の表面状態	態が良い。	該当6項目以上···a	
		□2) 構造物の通りが良い。		該当4項目······b	
		□3) 天端仕上げ、端部仕上げが良い。		該当3項目・・・・・・c	
		□4) 製品のかみ合わせが良い。		該当2項目以下···d	
		□5) クラックがない。			
		□6) 漏水がない。			
		□7) 全体的な美観が良い。			
	補強土壁工事	●評価対象項目		●判断基準	
	軽量盛土工事	□1) 壁面材(コンクリート製品)の割れ・カケが	ない。	該当4項目以上···a	
		□2) 壁面材の目違い、段差が少なく構造:	物の通りが良い。	該当3項目······b	
		口3) 天端仕上げ、端部仕上げが良い。		該当2項目······c	
		□4)構造物等へのすりつけが良い。		該当1項目以下···d	
		□5) 全体的な美観が良い。			
L					

様式土3-6 ⑥

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (検査員) Ы 考查項目 I 種 優れている やや優れている 他の評価に該当しない 劣っている 3. 出来形及び 橋梁補修 ●評価対象項目 ●判断基準 出来ばえ 修繕工事 □1) 伸縮装置が適切に施工され段差がない。 該当6項目以上···a □2) 構造物へのすりつけ等が良い。 該当4項目·····b 皿. 出来ばえ □3) 端部処理が良い。 該当3項目·····c □4) クラック補修の表面仕上げが良い。 該当2項目以下···d □5) 断面修復の表面仕上げが良い。 □6) 細部まできめ細かな施工がなされている。 □7) 全体的な美観が良い。 河川伐開工事 ●評価対象項目 ●判断基準 □1) 刈残しもなく、適切に施工されている。 該当3項目以上···a □2) 伐木・刈草の後始末が良好である。 該当2項目·····b □3) きめ細かな施工がなされている。 該当1項目·····c □4) 全体的な美観が良い。 該当項目なし・・・・・d 上記以外の工事又は ●評価対象項目 ●判断基準 合併工事 該当4項目以上···a **□**1) □2) 該当3項目·····b □3) 該当2項目・・・・・c **4**) 該当1項目以下···d □5) 該当工種からの評価対象項目で評価を行う。ただし、評価対象項目は最大5項目とする。 上記以外の工事又は ●評価対象項目 ●判断基準 合併工事 $\Box 1)$ 該当4項目以上···a □2) 該当3項目·····b □3) 該当2項目·····c **4**) 該当1項目以下···d **□**5) 該当工種からの評価対象項目で評価を行う。ただし、評価対象項目は最大5項目とする。

エ 事 成 績 評定 の 考 査 項 目 別 運 用 表 (土木工事)

考 査 項 目	対 応 事 項		【事例】具体的な施工条件等への対応事例			
4. 工事特性 施工条件等への対応		(1.について)				
□ 1. □ 2.	物の特殊性への対応 対象構造物の高さ、延長、施工(断)面積、施工深度等の規模が 特殊な工事 対象構造物の形状が複雑であることなどから、施工条件が特に 変化する工事 その他	切土又は盛土工の土工量:15万m³以上、護岸・築堤の直高:10m以上、トンネル(シールド)の直径:8m以上、ダム用水門の意 m以上、樋門又は樋管の内空断面積:15m²以上 、揚排水機場の吐出管径:2,000mm以上 堰又は水門の最大径間長:25は水門の径間数:3径間以上、堰又は水門の扉体面積:50m²/門以上、トンネル(開削工法)の直高 20m以上、トンネル(断面積:85m²以上、トンネル(沈埋工法)の内空断面積:300m²以上、海岸堤防、護岸、突堤又は離岸堤の水深:10m以上、エの施工幅:100m以上、地滑り防止工の法長:150m以上、浚渫工の浚渫土量:100万m³以上、流路工の流路体積:500m³ダムの堤高:15m以上、ダムの堤高:150m以上、転流トンネルの流下能力:400m³/s以上、橋梁下部工の高さ:30m以上、の最大支間長:100m以上				
	理由:	(2. について)				
	※上記の対応事例に1つ以上レ点が付けば3点の加点とする。	・砂防工事などにおいて、現地合わせに基づいて安定計算等の再設計が必要な工事。				
		・鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事	又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事。			
		・供用中の道路トンネルの活線拡幅工	事。			
		(3. について)				
		・その他、構造物固有の難しさへの対	応が特に必要な工事			
		・その他、技術固有の難しさへの対応				
			るために新技術又は新工法を採用した工事。			
			ールドで特許工法等を用いて技術的な検討が必要な工事。			
T ## ± #	部等の作業環境、社会条件等への対応	・地山強度が低い又は工被りが薄いた(4.について)	め、FEM解析などによる検討が必要な工事。			
	ル等の作来現場、社会末件等への対心 地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事	・供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事。				
	周辺環境条件により、作業条件、工程等に大きな影響を受ける工事	・市街地等の家屋密集地での、鉄道又				
□ 6.	周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事	・監視などの結果に基づき、工法の変	更を行った工事。			
□ 7.	現道上での交通規制に大きく影響する工事	(5.について)				
□ 8.	緊急時に対応が特に必要な工事	・ガス管、水道管、電話線等の支障物	件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事。			
9.	施工箇所が広範囲にわたる工事	・地元調整(週1回以上)や環境対策な	などの制約(通常の作業工程の1.5倍)が特に多い工事。			
□ 10.	その他	・そのほか各種制約があり、施工に特	に厳しい制限(通常の作業工程の1.5倍)を受けた工事。			
	理由:	(6. について)	(7. について)			
	※上記の対応事例に1つ以上レ点が付けば5点の加点とする。		・日交通量が概ね1万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事。 ・供用している自動車専用道等の路上工事で、交通規制が必要な工事。			
		-	・工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事。			
		(8.について)				
		・緊急時の作業があり、その作業の全	てに対応した工事。			
		(9. について)				
		作業現場が広範囲に分布しているエ	事。			
		(10. について)				
			制限があり、機械の使用など施工に非常に制約を受けた工事。			
		・その他、周辺環境又は社会条件への	対応が特に必要な工事。			

考 査 項 目	対 応 事 項	【事例】具体的な施工条件等への対応事例
4. 工事特性 施工条件等への対応	Ⅲ厳しい自然・地盤条件への対応 □ 11. 特殊な地盤条件への対応が必要な工事 □ 12. 雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事 □ 13. 急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事 □ 14. 動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事 □ 15. その他 理由: ※上記の対応事例に1つ以上レ点が付けば3点の加点とする。	(1.について) (11.について) (11.について) ・河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事。 ・支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事。 ・施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事。 (12.について) ・海岸、港湾又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。 ・潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事。 (13.について) ・急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事(法面工は除く)。 ・斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事。 ・土石流危険渓流に指定された区域内における工事(原則本堤工事の掘削工事のみとし、流路工は除く) (14.について) ・イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事 (15.について) ・その他、自然条件又は地盤条件への対応が特に必要であった工事。 ・その他、質素件又は地盤条件への対応が特に必要であった工事。 ・その他、質素件又は地盤条件への対応が特に必要であった工事。
	 Ⅳ長期工事における安全確保への対応 # 12ヶ月以上超える工期で、事故がなく完成した工事 (全面一時中止期間は除く) ※但し、文書注意に至らなかった事故は除く。 # その他 ※上記の対応事例に1つ以上レ点が付けば5点の加点とする。 	 ・当初契約工期が対象。(ただし、12ヶ月以内に完成通知が提出された場合は評価しない。) ・現場条件の変化があり迅速に対応したにもかかわらず、工期が12ヶ月以上(部分中止期間を含む)となった場合は評価する。
記述評価 (レマークを付した 評価内容を詳細記 述)	_ 評 点: 点	【工事特性の詳細評価】

- ※1. 工事特性は、最大16点の加点評価とする。
- ※2 「5. 創意工夫」との二重評価は行わない。

様式土3-7②

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法]該	∛当する項目の□	にレマークを記入する。 2018/1/1 以降	(検	查	員)
考査項目	細別	工 夫 事 項			
5. 創意工夫	I. 創意工夫	[施工] □ 1. 施工に伴う器具・工具・装置類に関する工夫又は、設備据付後の試運転調整に関する工夫。 □ 2. コンクリートニ次製品などの代替材の利用に関する工夫。 □ 3. 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工に関する工夫。 □ 4. 部材・機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法に関する工夫。 □ 5. 設備工事における加工や組立等又は電気工事における配線や配管等に関する工夫。 □ 6. 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止、配管のつなぎ等に関する工夫。 □ 7. 照明などの視界の確保に関する工夫。 □ 8. 仮排水、仮道路、迂回路等の計画施工に関する工夫 □ 9. 運搬車両、施工機械等に関する工夫。 □ 10. 支保工、型枠工、足場工、仮桟橋、覆工板、山留め等の仮設工に関する工夫。 □ 11. 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫。 □ 12. 施工計画書の作成、写真の管理等に関する工夫。 □ 13. 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫。 □ 14. 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫。			
		□ 15. 新技術・新工法を活用し、現場で有効であったと認められる工夫。 16. I C T 施工技術を活用した工事。 ※本項目は、鳥取県県土整備部 I C T 活用工事実施要領3 (1) から (5) までの全ての項目において I C T 活用を行った 工事について4点の加点とする。ただし、1項目でも実施していない場合は、加点評価しない。 [品質] □ 17. 土工、設備、電気に関する工夫。 □ 18. コンクリートの材料、打設、養生に関する工夫。 □ 19. 鉄筋、P C ケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫。			
		□ 2 0. 配筋、溶接作業等に関する工夫。 [安全衛生] □ 2 1. 建設業労働災害防止協会が定める指針に基づく安全衛生教育を実施している。※本項目は2点の加点とする。 □ 2 2. 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。(落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等) □ 2 3. 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール等に関する工夫。 □ 2 4. 現場事務所、労務者宿舎等の空間及び設備等に関する工夫。 □ 2 5. 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫。 □ 2 6. 一般車両突入時の被害軽減方策又は、一般交通の安全確保に関する工夫。 □ 2 7. 厳しい作業環境の改善に関する工夫。 □ 2 8. 環境保全に関する工夫。 □ 2 8. 環境保全に関する工夫。 [その他] □ 2 9. その他(理由) □ 3 0. その他(理由)			
	記述評価 (レマークを 付した評価内 容を詳細記 述)	「割息工大の詳細評価」 「評点: 点			

- ※1. 施工に当たり、品質・出来ばえ・安全・環境面等に関して、よりよいものにするために工夫した内容とその成果・結果が具体的に記載された事例について、特に評価すべきものを加点評価する。 施工時に本来配慮されるべきことや、単に市販品を導入・使用しただけのものについては原則として評価しない。
- ※2. 評価は各項目において1つレ点が付されれば1点(項目16は4点、項目21は2点)で評価し、最大11点の加点評価とする。
- ※3. 該当する数と重みを勘案して評点する。1項目1点を目安とするが、内容によってはそれ以上の点数を与えてもよい。
- ※4. 上記の考査項目の他に評価に値する企業の工夫があれば、その他に具体の内容を記載して加点する。なお、「工事特性」との二重評価は行わない。

工事成績評定の考査項目別運用表(土木工事)

[記入方法] 該当する項目の口にレマークを記入する。 (検査員) 2018/1/1 以降 考查項目 別 ●評価対象項目 6. 社会性等 I. 地域への貢献等 ┃□1) 周辺環境への配慮に積極的に取り組んだ □2) 現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせるなど積極的に周辺地域との調和を図った。 □3) 定期的に広報紙の配布や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。 □4) 道路・河川清掃などを積極的に実施し、地域に貢献した。 □5) 地域の清掃活動に積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。 □6) 地域が主催するイベントへ積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。 □7) 災害時などにおいて、地域への支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。 □8) その他 (理由: 評 評点: 点 社会性等は、加点評価する。 ・加点は+8点~0点の範囲とす ・1項目1点を目安とするが、内容によってそれ以上の点数を与えてもよい。

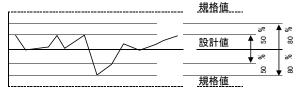
- ※地域への貢献等とは、工事の施工にともなって、地域社会や住民に対する配慮等の貢献について加点評価する。
- ※□1)周辺環境への配慮とは、(例えば、汚濁防止フェンスの設置、絶滅危惧種の保存・保護等)自主的な取り組みで設計対象外のもの。
- ※□5)が評価対象の場合には、□4)も評価する。(ダブル評価)
- ※□5)国、市町村、NPO法人等が広く呼びかけて開催する清掃活動等への参加は、評価の対象としない。
- ※□8)インターンシップ事業への協力は、評価の対象としない。

工事成績評定の考査項目別運用表

[記入方法]該当する項目の口にレマークを記入する。 2018/1/1 以降 (総 括 監 督 員)

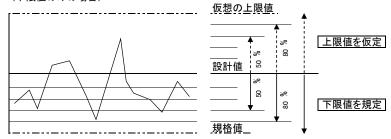
考 査 項 目	細 別	法 令 遵 守 等 の 該	当 項 目 一	見			
8. 法令遵守等	I. 法令遵守等	1 法令等に関する項目					
		措置内容	点数				
		□ 資格停止期間3ヶ月以上	-20点	□ 該当項目なし			
		□ 資格停止期間2ヶ月以上3ヶ月未満	-15点				
		□ 資格停止期間1ヶ月以上2ヶ月未満	-13点				
		□ 資格停止期間2週間以上1ヶ月未満	-10点				
		□ 文書による警告	- 8点				
		□ 文書による警告 - 8点 ① 本評価項目で評価する事例は、工事の施工に当たり、工事関係者が次の適応事例で上表の措置があった場合に適用する。 ※11「工事の施工に当たり」とは、請負契約書の内容(工事名、工期、施工場所等)を履行することに限定する。 ※2 「工事関係者」とは、※1を履行する工事現場に従事する現場代理人、監理技術者、主任技術者、請負会社の現場従事職員及び※1を履行するために下請負契約し、その履行をするために従事する者に限定する。 【上記で評価する場合の適応事例】 □ 入札前に提出した調査資料等が虚偽であった事実が判明した。 □ 承接なしに権利義務等第三者譲渡文は承継を行った。 □ 宿舎環境等の使用人等に関する労働条件に問題があり、送検等された。 □ 産業廃棄物処理法に違反する不法投棄、砂利採取法に違反する無許可採取等、関係法令に違反する事実が判明した。 □ 当該工事関係者が贈収賄等により逮捕又は公訴された。 □ 虚設業法に違反する事実が判明した。(一括下請け、技術者の専任違反等) □ 入国管理法に違反する外国人の不法就労者が判明し、送検等された。 □ 使用入等の就労に関する労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 □ 使用、等の就労に関する労働基準法に違反する事実が判明し、送検等された。 □ 監督または検査の実施にあたり、職務の執行を妨げた。あるいは不当な政治力等の圧力をかけ、妨害した。 □ 下請け代金支払遅延防止法第4条に規定する下請代金の支払いを期日以内に行っていない。あるいは不当に下請代金の額を滅じている。あるいはそれに類する行為がある。 □ 過税載等の道路交通法違反により、逮捕または送検等された。 □ 受注企業の社員に「指定暴力団」あるいは「指定暴力団の傘下組織(団体)」に所属する構成員、準構成員、企業舎第等、暴力団関係者がいることが判明した。 □ 下請けに暴力団関係企業が入っていることが判明した。あるいは、暴力団対策法第9条に記されている。砂利、砂、防管シート、軍手等の物品の納入、土木作業員やガードマンの受け入れ、土木作					
	た公衆災害を起こした。						
		□ 監督員が文書等により改善指示を行ったが、これに従わなかった。					
		② 評定後、鳥取県建設工事等入札参加資格者資格停止要綱に基づき、資格停止	措置が決定した場合は、鳥	取県建設工事検査規程第14条第3項に基づき、当該評定を修正するものとする。			
		技術提案内容の履行状況	点 数				
		□ 技術提案型総合評価競争入札方式において、受注者の責により技術提案実施計画書に記載した事項が履行されなかった。 (=	事項数)×(一3) 点				
		① 本評価項目は、技術提案型総合評価競争入札方式において、受注者の責によ 行基準によるものとする。	リ技術提案実施計画書に記 対表	載した事項が履行されなかった場合に適用し、減点数は技術提案型総合評価競争入札試			

- 1. 出来形及び品質のばらつきの考え方 ②[管理図の場合]
 - (上・下限値がある場合)



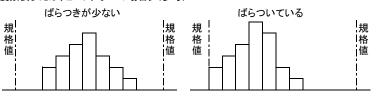
- 注 1、ばらつきの判断は、上記図の上・下限値の50%、80%で a、b、c の判定をする。
 - 2、品質管理点数が少なく、ばらつきの判定が困難なものは、施工管理、品質管理状況、全体の 仕上がり状態を工事記録、目視等で確認し、それに応じた評価とする。

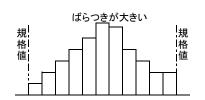
(下限値のみの場合)



- 注 出来形のばらつきの考え方
 - 1、上限値のない場合は、下限値と同様な値があるものと仮定し、ばらつきの%を考慮する。
 - 2、次の場合は、ばらつきを50~80%とみなす。
 - (1)規格値が設計値以上となっている場合
 - (2)実測値を設計値とする場合(施工後の実測値を設計値に反映する場合)
 - (3)根固めブロック・吹付枠等既製型枠を使用して施工する場合(厚さ、幅、高さ)
- 注 出来形のばらつき判定の仕方
 - (例1)吹付枠エ・・・法長・延長は上記2(2)、幅・高さは上記2(3)、中心間隔は左記1を適用し、工事全体のばらつきを算定する。 (例2)切削エ+オーバーレイエ・・・切削工の全測定項目とオーバーレイエの幅・延長は上記2(2)、オーバーレイエの厚さは上記1を適用して、工事全体のばらつきを算定する。

◎[度数表または、ヒストグラムの場合](参考)





- 2. 多工種複合工種の取り扱い
 - (1)出来形のばらつき
 - ・原則として主たる工種と重要な工種の検査内容(基準高、幅、厚さ、高さ、法長、延長等) のばらつきを算定する。
 - (2)品質・出来ばえ
 - ・原則として主たる工種と重要な工種について評定した上で、低い点数を採用する。

- 3. コンクリート構造物のクラックについて
 - クラックが発生した構造物は、検査の前までにコンクリート診断士等専門家の意見を聴取し、発注者と協議して対応する。
 - (1)有害なクラックについては、補修されている場合、「□)コンクリート構造物に有害なクラックがない」の評価項目はチェックしない。補修されていなければ、d以下の評価とする。
 - (2)有害なクラック以外は「口)コンクリート構造物に有害なクラックがない」の評価項目はチェックする。
 - (3)検査の前までに調査がなされていない場合は指摘票により調査を行い、調査結果に基づき評定する。有害なクラックは、d以下の評価とする。 有害なクラック以外は「有害なクラックはない」の評価項目をチェックするが、a又はa´の評価はしない。
 - (4)出来ばえについて、適切な補修等がしてある場合は「クラックなし」とする。
 - *上記クラックに関するコンクリート構造物とは、①鉄筋コンクリート(橋梁、樋門、樋管、管渠等)、②重要な無筋コンクリート構造物(ダム(袖部含む)、堰堤、床固、場所打擁壁等)とする。 なお、クラックについては、下記指針等を参考とできるが、専門家の意見が必要。

「コンクリートのひび割れ調査、補修、補強指針」(日本コンクリート工学協会)、「コンクリート標準示方書[維持管理編]」(土木学会)

- 4. 運用表の記入方法
 - (1)各運用表の該当する項目の口にレマークを記入する。
 - (2)該当項目等の%及び個数によりa、(a´)、b、(b´)、c、d、eを判断し該当記号に〇印をつける。
 - (3)(2)により該当記号を工事成績採点表に写し採点をする。
- 5. (1)「Ⅲ.出来ばえ」で該当項目が 減った場合の評定の考え方

			該当チェック項目数(個)							
			1	2	3	4	5	6	7	8
	評定	а	1	2	3	3	4	5	6	7
		b	1	1,2	2	2	3	4	4	4
	人点	O	1	1	1	1	2	3	3	3
		d	無	無	無	無	1	2	2	2

- (2) 積雪等により出来ばえの現地検査ができない場合
- ・監督員が行った段階確認及び出来形確認資料や工事 写真等で検査を行うが、構造物等について細部まで詳 細に検査することが出来ないため、出来ばえは「C」と 評定する。
- 6.「品質」
- (1) 品質の重要項目(☆印)とは、その工種において施工上の配慮を特に求める項目である。
- (2) '河川浚渫工' 等の品質管理項目が無い場合等の評定の考え方
 - ・評価対象項目が2項目以下の場合は、C評価とする。
 - 品質管理項目がない場合C評価とする。

±3-10① 工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況 2018/1/1 以降

工3-10① 工事1 3		- 女に守に因りる大心仏が 2018/1/1 以降
工事名		受注者
項目	評 価 内 容	備考
□工事特性	□構造物の特殊性	・ 構造物の高さ、延長等の規模が特殊な工事
	への対応	・ 構造物の形状が複雑であることなどから施工
工事全体を通し		条件が特に変化する工事
て当該工事特有の	□都市部等の作業	・近接構造物等への影響に配慮する工事
難度の高い条件(構	環境、社会条件	・ 周辺環境条件により作業条件等に大きな影響
造物の特殊性、特	等への対応	を受ける工事
異な技術、都市部		・ 周辺住民等に対し騒音等を特に配慮する工事
等の作業環境、社		・ 現道上での交通規制に大きく影響する工事
会条件、厳しい自然		・施工箇所が広範囲にわたる工事
・地盤条件、長期工	□厳しい自然・地盤	・ 特殊な地盤条件への対応が必要な工事
事における安全確	条件への対応	・ 雨・雪・波浪等の自然条件の影響が大きな工事
保等)に対して適切		・ 急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事
に対応したことを評		・自然環境の保全に特に配慮が必要な工事
価する。	口長期工事におけ	・ 12ヶ月以上の工期で事故がなく完成した工事
	る安全確保への	(全面一時中止期間は除く)
	対応	
□創意工夫	□施工	・施工に伴う機械、器具、工具、装置類
		・ 二次製品、代替製品の利用
「工事特性」のよ		・ 施工方法の工夫
うな難度を伴わない		・仮設計画の工夫
工事において、企業		・施工管理等の工夫
の工夫やノウハウ	□新技術等活用	・ 新技術・新工法を活用し、現場で有効であった
により特筆すべき便		と認められる工夫
益があった場合に		
評価する。	□品質	・ 土工等に関する工夫
		コンクリートに関する工夫
		・二次製品等の使用材料に関する工夫
	□安全衛生	・安全施設・仮設備の配慮
		・ 安全教育・講習会・パトロールの工夫
		・作業環境の改善
		・交通事故防止の工夫
	□その他	
□社会性等	□地域への貢献等	・地域の自然環境保全、動植物の保護
		・現場環境の地域への調和
地域社会や住民		・ 地域住民とのコミュニケーション
に対する貢献		・ ボランティアの実施

- 1 該当する項目の口にチェックマーク記入。
- 2 具体的内容の説明として、写真・ポンチ絵等を説明資料に整理。

±3-10② 工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況(説明資料)

2018/1/1 以降

工事名		/
項目	評価内容	
提案内容	I	
(説 明)		
(添付図・写真)		

(注) 説明資料は簡潔に作成するものとし、必要に応じて別葉とする。